

EP THE EIKO ALUMNI 85

2016年4月10日発行 ©2016 発行人:栄光学園同窓会・菱沼徹臣 編集人:高橋英治 印刷所:ナガシマ印刷工房
発行元:栄光学園同窓会 〒247-0071 鎌倉市玉縄4-1-1 ☎0467-44-8875 <http://www.eikoalumni.org>

新校舎建設工事

昨年9月から旧校舎の解体工事が始まり、現在新校舎の工事が本格的に行われております。本会報の編集時(3月下旬)には基礎工事が終わり、1階部分の柱が姿を現し始めています。2017年3月末の竣工に向けて順調に進んでいるそうです。



3月21日撮影

64期生が卒業、176名が新会員に！

2016年3月1日、栄光学園第64期生の卒業式が行われ、同窓会に新たに176名が加わりました。

祝賀会では同窓会を代表して菱沼会長より祝辞を述べ、卒業生に「同窓会案内書」と「EACON入門(操作手順説明ならびにID、パスワード)」を配布するとともに記念品の印鑑を贈呈しました。

5月14日(土)、15日(日) 栄光祭開催

5月14日(土)、15日(日)に第69回栄光祭が開催されます。新校舎の工事につきプレハブ校舎での開催となります。物理的な制約もあると思いますが、そこは栄光生たち、きっと不利な条件を逆手にとって、すばらしい企画を考えていることでしょう。

〈追悼ミサ〉

栄光祭初日5月14日(土)9時30分より、学園聖堂において、この一年間に亡くなられた教職員・卒業生の追悼ミサを行います。ミサ後、聖堂隣のアロイジオ会館ホールにて、追悼した方々を偲び、茶話会も予定しています。多くの卒業生のご参列をお待ちしております。なお、平服でお出かけください。(5ページに記事)

〈同窓会定期総会のお知らせ〉

2016年5月14日12時より栄光学園アロイジオ会館において2016年度同窓会定期総会を行います。各期委員並びに支部委員の皆様のご出席をお願いいたします。昼食は用意します。

〈OBの部屋 ALUMNI〉

栄光祭開催中の両日、今年もOBの部屋ALUMNIを開きます。今年は会場が聖堂ホールではなく、プレハブ校舎の一部屋をお借りする予定です。当日の案内をご確認ください。

主な目次 No.85

学園からのメッセージ	2	EACONを使おう	11
同窓会会長挨拶	3	母校の様子、恩師の事など	12
OBフォーラム@TOKYO(2015. 11. 5)報告	3	OB便り	23
同窓会行事報告・案内	5	同期会・同期の活動	31
会則改訂について	5	支部活動	40
同窓会各部2015事業報告・2016計画案	6	歴史文学散歩	50

学園からのメッセージ

栄光学園中学高等学校長 望月伸一郎

同窓会の皆さま方には、日頃より学園の教育活動にご理解とご協力をいただき感謝いたしております。

まずご報告申し上げますこととしては、法人合併について、でございます。昨年この「アラムナイ」誌でもお知らせいたしておりましたが、日本国内でイエズス会が設立母体となっている学校法人が、今年4月、正式に合併いたしました。栄光学園をはじめ、六甲学院、広島学院、上智福岡などの中等教育期間と、上智大学、上智短期大学部、上智社会福祉専門学校、聖母看護学校などの高等教育機関とがひとつの法人によって経営されることになり、新たな学校法人「上智学院」が発足いたしました。

ただ、いまだに誤解されて伝えられていることもあるようですが、栄光学園をはじめ4つの中学高等学校は上智大学の附属学校となるものではありません。今後も各校はそれぞれの独自性を活かしていき、それぞれの教育方針を継続発展させていきます。ですので、栄光学園の進路指導などが合併によって変わることはありません。

各学校の経営は、独立採算を維持することを基本とします。ですので、本校の創立70周年事業において頂戴している寄付金なども、大学本体の寄付金に組み入れられることはありません。今後も栄光学園宛てにいただいたご寄付は、栄光学園以外の教育機関で使用されることはありません。

また、同窓会や後援会なども、合併によって変わることはありません。各学校に関連した組織機関も、今後ともそれぞれ固有のご活動をご継続いただければ、と思います。

イエズス会士の減少ということが合併の理由ではありませんが、この法人合併によって、むしろ大学教育と中学高等学校教育のより緊密な連携のもと、「イエズス会教育の深化」、「幅広い教育ネットワークの構築」、「次世代の担い手の養成」を実現するために協働していくことを目指しています。今後ともなにとぞご理解を賜りますようお願い申し上げます。

さて、ご支援をいただいております新校舎建築工事は、昨年12月に旧校舎の解体が終わり、新校舎の基礎工事が始まりました。現在までのところ、大きな問題もなく工事は順調に進んでおります。

新約聖書ルカによる福音書6章には次のような記述があります。

「わたしのもとに来て、わたしの言葉を聞き、それを行う人がみな、どんな人に似ているかを示そう。それは、地面深く掘

り下げ、岩の上に土台を置いて家を建てた人に似ている。洪水になって川の水がその家に押し寄せたが、しっかり建ててあったので、揺り動かすことができなかった。しかし、聞いても行わない者は、土台なしで地面に家を建てた人に似ている。川の水が押し寄せると家はたちまち倒れ、その壊れ方がひどかった。」

先ごろマスコミでも取り上げられましたが、基礎杭が地盤に到達しないままその上にマンションを建ててしまったことが大きな社会問題になりました。土台がしっかりしていないままに家を建てることの愚かさ。イエスの生きていた二千年ほど前のパレスチナ地方でも、同じような社会問題があったのか、と改めて思います。こんなたとえを用いたのもイエス自身が大工の家に生まれたので、建築工事には人一倍の関心があったゆえかもしれません。ただ、いつの時代でも目に見えるところだけ立派にして、見えないところでは手抜きをするということは、神の思いからは遠いようです。

栄光学園では決してそのようなことがあってはなりません。施工を担当した大成建設には、今回の基礎工事はどのようなものか、繰り返し説明してもらいました。本校舎の予定地は旧校舎があったところでもあり、地表部分がすでに固い地盤で何の問題もありません。ですが、西棟の予定地は地盤改良工事が必要でした。日程的には12月の期末試験にかかってしまい、試験のじゃまにならぬよう時間調整などしながらではありましたが、西棟の基礎工事をしっかりと行ってもらいました。

現在、少しずつ柱がたち始めています。工事概況の写真は、栄光学園ホームページ「校内散歩帖」でご覧いただけます。そちらをぜひどうぞ。今は設計施工会社との打ち合わせで、すでに内装や什器などのことに話題が移ってきています。

さて、仮設校舎に移ってすでに半年あまりがたちました。最初は違和感を禁じ得なかったものの、生徒たちもだいぶプレハブ校舎になれてきたようです。先ごろ、生徒会事務局がこの仮設校舎について全校生徒にアンケートをとっていました。

質問はすべて旧校舎と比べてどう感じるか、ということですが、「教室は過ごしやすいか」との質問に「過ごしやすい」が62%、「過ごしにくい」が38%。「教室以外の場所は使いやすいか」の質問には「使いやすい」が63%、「使いにくい」が37%という、意外とも思える結果でした。

仮設校舎では普通教室にエアコンがあることや、トイレが広くてきれいなことなどが快適な理由としてあげられていますが、むしろ生徒たちをみていると、たとえ仮設校舎でも良いところを積極的にプラス評価して、前向きに学校生活を送ろうとしているように思えます。さすがは栄光生です。

この4月には新入生としていよいよ70期生を迎えます。5

月の栄光祭も、仮設校舎で様々な制約がありながらも、予定通り行います。同窓会の方々にお使いいただける部屋も用意してございます。卒業生のみなさまも、よろしければぜひ大船までお越しください。

今後ともよろしく願いいたします。

同窓会長ご挨拶「新年度に向けて」

同窓会長 菱沼徹臣 (17期)

新校舎落成を来春に控え、母校創立70周年事業への支援が、2016年度の活動の軸となります。同窓会としては、引き続き、学園、後援会、栄光会とともに組成する募金委員会を通して積極的に関与していくとともに、さらに、その牽引役として事業を盛り上げてまいります。3月に入った時点での同窓生からの寄付金は、個人、法人名義合わせ1900人近い方々から約1億5千万円まで積み上がっております。皆様の熱いご支援、ご協力に改めて御礼申し上げますとともに、2017年末まで継続する予定の募金活動に引き続きご理解を賜り、さらに同窓生間のお声掛けを通し、一層多くの卒業生からのご寄附を賜りたいと存じます。同窓会の募金目標額は2億円ですが、全体での募金目標は5億円となっており、後者の現在額は目標の半分である約2億5千万円に迫り着いたばかりです。同窓会としては、会の目標額を超えて全体目標の達成に寄与すべく活動してまいります。

この70周年事業を踏まえ、16年度のイベント企画としては、昨年ご好評をいただいたOBフォーラム@TOKYOの第2弾を秋に開催する予定です。また、永年継承されている栄光OBゴルフコンペに同窓会も協賛し、拡大版として9月に開催を予定するなど、母校70周年を様々なイベントで盛り上げていきます。また、来年度の新校舎落成後のお披露目会や記念コンサートなど、70周年本番への準備も進める大事な年でもあります。イベントへの参加はもとより、企画運営にも手を挙げていただける方をお待ちしています。

昨年の組織活性化ワーキング・グループからの答申に基づき、2015年度は1年を通して会則改定委員会を開催し、同窓会の活性化を担保する会則のあり方と具体的な会則の見直しについて議論を重ねました。30期代及び40期代の法律家も複数加わって高い頻度で集まり、活発な討議を行いました。会務の実行と審議機能の明確な分離とそれぞれの強化、会の基礎である同期会及び支部の活性化、若手卒業生の同窓会幹事へのリクルート推進などが、この改定の主な狙いです。昭和61年の制定から30年が経過し、改定を経て、現行の会則は54条を数えるボリュームとなっております。この機会に、先達の理念や知恵を踏襲しつつ、全体

をより単純明快な表現と立て付けに改め、新しいキャンパスを次世代に残していきたいと考えています。この会則改定案は、常任委員会の審議を経て、5月の総会でご審議いただきます。

2016年度は、永年の課題に対して果敢に挑戦するキッカケをつくる年と捉えています。名簿印刷及び名簿データ管理のあり方は、今後の同窓会の基本的な運営や財政にも直結する根本的な課題です。この課題には、停滞する会費納入率という懸案と会費徴収の方法論も絡み、併せて足踏みするEACONの利用拡大策なども同時に重点的に論ずべきです。総務部と財務部の連携の下、広くメンバーを募り、深い議論をしていきたいと考えます。

会長就任以来3年が過ぎようとしています。「血の通う同窓会」を標榜し皆様のご協力を得て少しは成果が残せてきたかな、と感じています。一方、同窓会活動への参加率はまだまだ低く、相変わらず同期会すら持っていない期もあり、またせっかく設立されたものの活動を中断している支部も多くあるという状況が続いています。様々な同窓会活動の中で、特に同期会は最も基本的な活動であり、各期の状況の点検及び把握と必要な支援を実施していくことが今期のメインテーマの一つと捉えています。

同窓会は、卒業生のボランティアによって運営されています。取り組むべき課題は尽きることなくあり、人手は幾らあっても足りません。例えば、広報部の会報や同窓会ホームページに関わる作業は締切前に作業が集中するため、担当者への負担が大きくなっています。広報部に限らず、どの部門も似たような状況が続いています。僅かな時間でもかまいません。同窓会活動に参加しようと思われる方を募集しておりますので、是非とも事務局までご連絡下さい。

4月1日には、学校法人が合併されます。学園や同窓会の独立性、独自性は保たれますが、これによって学園も同窓会も少なからず影響を受けます。一つ大きな枠組みに入ることで、国際化や姉妹校との連携等の新しい取り組みなども期待される一方、栄光学園の名称を維持し独立採算制を基本として経営されます。こういう重要な結節点であればこそ、我々同窓生の物心両面での母校への支援が必要です。皆様のご理解を賜り、創立70周年事業を大いに盛り上げていきたいものです。どうぞよろしく願いいたします。

“栄光OBフォーラム@TOKYO”開催！
(2015年11月5日(木))

同窓会事業部長 増木洋介(30期)

菱沼同窓会長の悲願であった「東京で集まる。」イベントが、2015年11月5日に、満を持して開催されました。217名もの

OBの方々に参加いただき、にぎやかなイベントとなりましたのでご報告いたします。

栄光OBフォーラムは、OBの知見を共有する企画として以前より実施されていましたが、会場が大船であったためか、参加者も限定的となっていました。そこで、東京在勤、在住の方々にも多く参加していただけるよう、「東京」で「平日の夜」に開催するという企画をしました。

会場には、東京駅目の前、丸ビルの横に位置する「日本工業倶楽部会館」という歴史ある建物をお借りすることができました。



和泉洋人氏(20期)



パネルディスカッション:左から浅尾氏、戸谷氏、秋葉氏



パネルディスカッション:市川氏(左)と原氏(右)

17:30に開始した第一部のフォーラムは、内閣総理大臣補佐官の和泉洋人氏(20期)によるオープニング講演で幕を開けました。続くパネルディスカッションは、文部科学省から戸谷一夫氏(23期)、外務省から秋葉剛男氏(25期)、財務

省から市川健太氏(29期)、総務省から原邦彰氏(31期)、といった官僚の方々をパネラーとしてお迎えし、モデレータの浅尾慶一郎氏(31期)との掛け合いにより、専門的知見と本音を交えた熱い思いを語っていただきました。

引き続き19:00から第二部の懇親会を行いました。菱沼同窓会長(17期)の挨拶に始まり、萱場理事長、高祖上智学院理事長のご挨拶、姉妹校(六甲学院、広島学院、上智福岡泰星)からの来賓ご紹介の後、三井物産会長の飯島彰己氏(17期)による乾杯で賑やかにスタートしました。



飯島彰己氏(17期)

この後、歓談に花を咲かせる間もなく、次々とプログラムが進行します。

まず最初は、「青春スクロール掲載者の紹介」です。同窓会HPにも転載していますが、朝日新聞の神奈川版に連載された「青春スクロール」という記事に栄光卒業生が39名紹



青春スクロール掲載者

介されています。そのうち今回参加いただけた19名の方々に登壇いただき、ご紹介をさせていただきました。

一旦歓談の後、同窓会からのお知らせとして「就活ゼミ企画の紹介」や、飛び入り企画として川村貞知氏(37期)による校章デザインへの提言「校章の考証」が続きます。



隈健吾氏(21期)

現在工事中である「新校舎の紹介」は、隈健吾氏(21期)と崎山茂氏(25期)からいただきました。プロモーションビデオを交えた詳しい説明をいただき、ますます完成が楽しみになりました。

その余韻が冷めないうちに間髪入れず、「70周年事業募金委



崎山茂氏(25期)

員会からのお願い」を、後援会理事長である徳永良輔氏(1期)からいただきました。思わず財布を取り出した方も多かったようですが、事務局の準備が足りず、その場で寄付金をいただく用意がありませんでした。お振込みをお待ちしています。

後半で望月校長も駆けつけていただき、締め近くのタイミングではありましたが熱いご挨拶をいただきました。

中締めとして、大河原毅氏(11期)による素晴らしいご挨拶をいただき、きっちり21:00に大盛り上がりの懇親会を締めくくっていただきました。

当日は想定外のことも多々あり、用意したプログラムも盛りだくさん過ぎて、若干混乱気味なイベントではありましたが、次回を期待する声もいただいております。世代を超えた新たな交流のきっかけを提供できたのではないのでしょうか。今後もご期待ください。

同窓会の行事報告および案内

追悼ミサのご案内

大島弘尚 (14期)

栄光祭1日目、5月14日土曜日の午前9時30分より、栄光学園聖堂にて、この1年の間に亡くなられた教職員卒業生の皆様の追悼ミサを行います。亡くなられた教職員は、田浦時代初めての日本人イエズス会神父として8年間指導なされ、その後広島学院、そしてその後30年間ネパールで主に障害児の教育で活躍なさった大木章次郎先生、田浦時代から46年にわたって指導して下さった国語科の阿部忠也先生、現職のまま亡くなられた会計主任の鈴木和郎様です。亡くなられた卒業生は同窓会に連絡があった、1期生から45期生までの32名の方々です。

ご遺族と退職した教職員の方々にもご案内しており、追悼ミサの後、隣接するアロイジオ会館ホールにて、個人を偲ぶ茶話会も予定しています。卒業生の皆様の御参列をお待ちしております。平服でお出かけください。

同窓会イベントのお知らせ

同窓会事業部

◆OBの部屋のご案内

今年も5月14日、15日の栄光祭期間中、卒業生の憩いの場として「OBの部屋」を設ける“予定”です。

今年の栄光祭は仮設校舎での開催となりますので、会場の

確保について学園と鋭意調整中です。

◆OBフォーラム開催予告

2015年11月にOBフォーラム@TOKYOとして開催いたしましたが、好評につき、2016年秋に東京開催、2017年春に大船開催を計画中です。乞うご期待。

◆創立70周年記念コンサート開催予告

新校舎竣工の年2017年夏に、横浜みなとみらいホールにおいて栄光フィルによる記念コンサートを開催予定です。

同窓会各部からの連絡・報告

栄光学園同窓会会則改訂について

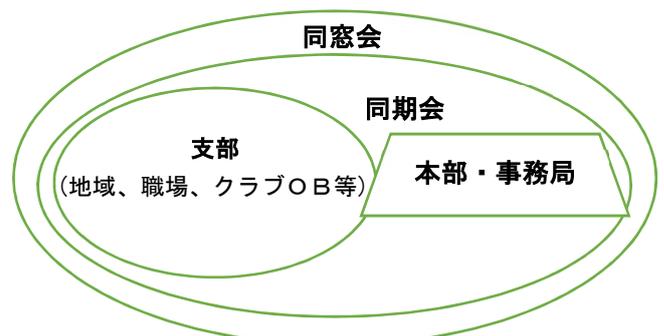
同窓会総務部長 青木嘉光(10期)

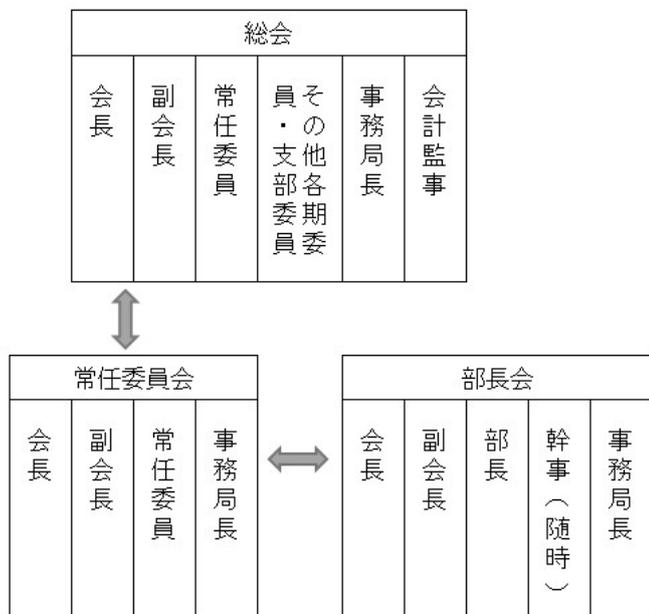
総務部では2015年度一年間をかけ、同窓会発足当初からの現「栄光学園同窓会会則」の全面改訂に取り組んでいる。これは「同窓会の諸事業並びに組織全体」を見直す中で、実態重視の「会則」に改訂することにより、同窓会の一層の活性化に資することを企図したものである。即ち、2013年度、2014年度「組織活性化ワーキング・グループ」が提言、各部で推進している実態面での活性化を、規約面から裏打ちしようということ。単なる条文の整理ではない。

2015年5月総会で事業計画の一つとしてご報告、その後8月に「会則改訂作業チーム」を組成。メンバーには、今後同窓会活動の中心となる30期代、40期代の比較的新しい会員を募った。そして、9月以降毎月会合を開催、議論を重ねてきた。

「改訂会則」は、現在の三つの「活性化阻害要因」即ち、期委員と本部との連絡機能の不備、常任委員会の不活発、事業遂行での実働力不足ということに対処する方策を示すことに重点を置き、①同期会を会則条文できちんと規定する、②事業の実行に関与する会議を設置する、③実働人員の登用面の手当をするという三つの柱を中心に据えてある。

(改訂のイメージ)





2016年2月の常任委員会で改訂原案を説明。その後2期、4期、8期の常任委員から意見がありそれらを修正。33期、43期、47期、48期の会員が練った案を、一桁台の大先輩が修正という同窓会ならではの過程を経て、54条の現会則が29条の「改訂会則」として纏まってきている。ちなみに、議論で参考にした姉妹校の六甲学院、上智福岡中学高等学校、近隣の聖光学院などは、いずれも22条、26条、24条と簡潔なものであった。

「改訂会則」については、総会前であり本誌での詳細公表を差し控えるが、今後4月の常任委員会、5月の総会決議を経て施行できるよう、更なる議論を予定している。

各部2015年度事業報告と2016年度事業計画

総務部

同窓会総務部長 青木嘉光(10期)

2015年度事業報告

総務部の2015年度は、「栄光学園同窓会会則」の改訂が中心の一年間であった。2014年度の組織活性化WGの答申を受け、5月の総会で会則改訂の御承認を頂き、7月から会則改訂のための作業チームの人選を開始。その結果33期、43期、47期、48期と比較的新しい会員からメンバーを抜擢し、チームを組成することができた。そして9月以降毎月会合を開催、毎回活発に議論を行い、本誌に別途掲載の記事にある通り、①同期会を会則条文に規定、②事業実行に関与する会議の明示、③実働人員の登用面の手当などを基本とした改訂同窓会会則案を纏めることができた。改

訂会則案は29条と現会則の54条に比し、大分簡潔になっている。

この会則改訂の作業においては、総務部が主体となり、もう一つの事業計画としてあげた、事務局の負担の軽減ということも実行することができた。

2016年度事業計画案

2016年度の総務部の事業計画の第一は、会員名簿の今後のあり方の検討である。これは前年度、計画の一つに挙げ資料整備等下準備をしてきた課題であるが、慣例を踏襲すれば、愈々、今年度が会員名簿発行の年。2014年度に実施した「全会員対象のアンケート」では、回答260件のうち、197件が「役に立っている、役に立ったことがある」とのこと。一方で、名簿発行費用は同窓会経費中最大の支出で名簿発行年度は単年度収支が赤字になるとか、また、EACONの名簿機能は現名簿以上の活用が期待できるといった実態もある。従って、特別委員会を立ち上げ、関係各部とも連携し、また会員の皆様のご意見も募り、名簿をどのような形にするか対応を決めることを今年度の計画としている。

その他の重要課題は、2015年度に纏めた改訂会則の施行状況のフォロー、施行後に改善が必要な点が出てくれば対処していきたい。そして、これら計画を進める中で、事務局の負担軽減について留意していくことも引き続き計画の一つとする。

財務部

同窓会財務部長 近藤亮介(45期)

2015年度事業報告

会費請求については、第2グループ702名の会員を対象に、当年度分2,500円の口座振替による引き落としまたは4年分(未納がある場合には8年分)一括振り込みの郵便振替の案内を送付いたしました。また、前年度までに請求した第1、第3及び第4グループのうち、未納の会員3,185名にも再度納入を依頼しております。この結果、口座振替利用率は26%と前年よりも1ポイント改善いたしました。会費の納入率は47%と前年よりも2ポイントの改善に留まり、残念ながら目標である50%には達しませんでした。

2016年度事業計画案

2015年度も経費の節減に努めたものの、同窓会の収支は継続して赤字の状態が続いており、会費納入率の改善は2016年度においても最重要の課題であると認識しております。この点、2015年度に会費情報のデータベース化を進めたため、それを利用して同期会、支部会及びOBフォーラム

等各種イベントの参加者で会費が未納である会員について積極的に納付をお願いし、納入率50%超を目指していく方針です。また、会費納入方法や他の収入源の検討、各種イベントの実施や名簿発行のタイミング等を勘案し、中長期的な視点に立った収支計画の立案を検討していく予定です。

広報部

同窓会広報部長 高橋英治(28期)

2015年度事業報告

会報「THE EIKO ALUMNI」は84号を2015年10月1日、85号を2016年4月10日に発行した。84号からは紙面をA4サイズに拡大し、掲載する写真が見やすくなった。

「同窓会ホームページ」ではカバーページのオートスライド写真に解体工事中の大船旧校舎や、建設が開始された新校舎の完成予定図などを取り込み、工事の状況をお伝えしている。また、記事には、新たに山本洋三先生(16期)がご自身のホームページに掲載中の「懐かし写真館」を転載させていただいている。

「EACON」については引き続き広報部でも運用を促進するためホームカミング・ディOBの部屋においてパスワードの即時発行をしたり、会報およびホームページで「EACON」の使い方に関する記事を掲載した。

2016年度事業計画案

会報「THE EIKO ALUMNI」は例年通り年2回の発行を予定しているが、創立70周年事業の支援の一環として企画されるイベントの案内などのため、発行時期を調整する可能性もある。

「同窓会ホームページ」においても、これらイベントのお知らせをタイムリーに実施していく。

「EACON」の運用促進を継続するが、一方でFacebookなどのSNS(Social Network System)を同窓会でも活用することにより、若手の卒業生の活動の活性化を図ることができないか、検討を開始する。

事業部

同窓会事業部長 増木洋介(30期)

2015年度事業報告

(1) 同窓会会員交流事業

ア) 例年通り、栄光祭(2015/5/9~10)においてOBの部屋「アラムナイ」を設置し、飲料、軽食の提供および同窓会

事業や学園70周年事業の紹介、「EACON」のパスワード払い出し、操作説明等を実施した。

イ) 2015年5月24日に学園70周年事業協賛企画として「新校舎建築シンポジウム」と題した第6回OBフォーラムを開催した。隈研吾氏(21期)、崎山茂氏(25期)他による新校舎の詳しい紹介の後、望月校長他も交え、菱沼同窓会長がモデレーターとなりパネルディスカッションを実施した。併せて「現校舎お別れ見学会」を実施した。また、2015年11月5日には、第7回として「栄光OBフォーラム@TOKYO」を丸の内の日本工業倶楽部会館において実施した。第一部でフォーラム、第二部で懇親会をおこない、217名に参加いただいた。

ウ) 2015年度歴史文学散歩は6期三春勝正氏、14期大島弘尚氏を中心に、4回の歴史・文学の遺産散策を行った。

(2) 在校生支援事業

ア) 例年通り、高1ゼミ及び公開ゼミへのOB講師の派遣を行った。本年度は25期と35期が担当した。

(3) 「栄光学園創立70周年事業」関連事業

栄光OBフォーラム@TOKYOの第二部懇親会において、徳永良輔氏(1期)に「70周年事業募金委員会からのお願い」をしていただく等、募金委員会と連携した募金収集活動協力をした。

2016年度事業計画案

2015年度に続き、2016年度も例年実施している事業に加え、「栄光学園創立70周年事業」を支援し、積極的に協力していく。

(1) 同窓会会員交流事業

ア) 5月14日、15日開催の栄光祭においてOBの部屋「アラムナイ」を設置し、同窓生交流の場を提供する。

イ) 第8回OBフォーラムは2016年秋に東京での開催を予定している。

ウ) 2016年度歴史文学散歩も引き続き6期三春勝正氏、14期大島弘尚氏を中心に、年4回の実施を予定している。

(2) 在校生支援事業

ア) 高1ゼミ及び公開ゼミへのOB講師の派遣を行う。本年度は26期と36期が担当する。

(3) 「栄光学園創立70周年事業」関連事業

原則として上記既存の事業メニューをベースとし、募金委員会と連携した募金収集活動や、記念イベント実施に協力していく。

・OBフォーラムでの寄付呼びかけ

・新校舎見学会(2017年春、OBフォーラムとして開催予定)

・創立70周年記念コンサート(2017年8月開催予定)

活動サポート部

同窓会活動サポート部長 島崎裕之(26期)

活動サポート部は、同窓生の自主的な活動の活性化を促し、それに伴う支援・援助が担当業務であります。加えて活動の情報を共有化、情宣することです。

以降、カテゴリー別に2015年度の活動を報告いたします。

①各期活動支援

同窓会が把握している限りでは、計21期が同期会を延べ22回開催しています。宴会の他、泊りがけの旅行・ゴルフコンペ等が主な行事です。うち同窓会に開催報告の投稿があった会は17期延べ18回でした。なお今期まではEACONのパスワード変更者が30名を超え、その他一定の基準を満たすと、同期会開催にあたり1,000円/人の援助を受けることができますが、これを申請した期は9期に上りました。

②支部活動支援

期初時点でクラブのOB会が9支部、地域のOB会が6支部、企業・業界等のOB会が12支部、計27支部があり、同窓会が把握している限り14支部で17回の活動を行っています。うち同窓会に開催報告の投稿があった会は7支部10回でした。また2015年度は野球部OB会が11月3日の設立総会開催を以って組織化され、新支部に加わりました。

③その他活動グループ支援

オール栄光ゴルフコンペは、有志各位の主催により、長年にわたり毎年開催されてきましたが、近年参加者の減少、高齢化が進み、存続に不安が出て参りました。同窓会としても歴史あるコンペを存続させる事は重要であると判断し、同窓会が協賛するプロジェクトといたしました。具体的には『創立70周年記念』と銘打ち、開催日、会場も変更、組織的な情宣により若手からも幅広く参加を募る方針を固めました。

④その他社会貢献活動支援

現役栄光生ではありませんが、脳腫瘍と闘う少年音楽家である加藤旭君(66期)のCD『光のこうしん』の販売促進、コンサート開催の情宣を行いました。この活動には彼が所属するバドミントン部のOB会も関わり、活動しました。

以上、あらゆる組織を横断的に活用し、各期・支部には活動していただきましたが、多くの課題は残ります。それを踏まえ、以下に2016年度の活動方針を述べます。

①各期の活動

活動の実績は同窓会に報告するよう促し、活動が停滞している期の刺激になるよう情宣いたしたいと考えます。また社会人として若手から中堅となる年代である40期代の活動が停滞しているように見受けられます。仕事・家庭とも多忙な年代ですが、人脈を拡大すべき年代でもあります。各期委員等の連絡網の充実・活動の強化により活性化を図りま

す。

②支部活動

支部委員の組織を強化し、活動の停滞している支部のテコ入れを含め現有支部の活性化を図ります。また横断的な情報交換等により、部・地域・業態の支部設立を進めて行きます。

③オール栄光ゴルフコンペ

既に9月4日(日)にのみうりゴルフ倶楽部を36組144名予約済です。各ネットワークを活用し、開催に向け動員を図ります。またこのイベントを機会に各期・支部組織活性化にもつなげていきたいと考えます。

④社会貢献活動

引き続き社会貢献活動を支援するとともに活動を調査し、支援対象を掘り起こして参ります。

以上の方策には、広報部とともに『EACON』の運用促進・積極的な活用により、活動活性化を図っていきます。

第33回イエズス会校同窓会連絡会議(JJHAF)に参加して

同窓会副会長 山田宏幸(30期)

1年に1度、姉妹校の六甲学院、広島学院、上智福岡中学高等学校及び本校の4校の同窓会で開催される「イエズス会校同窓会連絡会」(JJHAF:The Japan Jesuit Highschool Alumni Federation)が、平成27年10月17日(土)に福岡で行われました。今回で33回目の開催となりますが、幹事は持ち回りで上智福岡。本校同窓会からは菱沼会長と山田が出席し、4校同窓会が、情報や課題を共有し意見を交換するとともに親交を深めました。

連絡会の会場は、上智福岡中学高等学校内で、博多駅からバスで15分ほどの郊外、小高い丘の上にあります。福岡市植物園や動物園に隣接し、その近くには福岡雙葉学園(幼稚園～高校)があります。福岡雙葉学園は、横浜や東京にある雙葉と姉妹校です。

さて私は、当日博多駅にかなり早く到着したので、コーヒーを飲みながら時間調整し、14時からの会議に余裕を持って13時前のバスに乗りました。博多の街並みを窓越しに楽しんでいましたが、30分たっても目的のバス停に到着しません。「あれ、渋滞していないのにおかしいな、乗る前に運転手さんに“上智福岡中高前”停まりますよねと確認したのになあ…」と不安になり、バスの経路を確認してみると、どうも乗車したバスは遠回りをする系統だったようです。とはいえ、今さら降りる訳にもいかず、運を天に任せつつ、車内で意味もなく焦ったりしていると、何とか定刻の10分ほど前に最寄り



上智福岡中学高等学校正面玄関

のバス停に到着。小走りに上智福岡に向かい、なんとか間に合いました。会議室で菱沼会長と手分けして持参した配布用資料を組み上げて配布し、会議がスタートしました。

会議は14時から1時間半程度行われ、幹事の上智福岡の司会で進行しました。会議の概要は以下の通りです。

《会議の概要》

1 日時:会議 2015年10月17日(土)14:00~15:30
(懇親会16:00~18:00頃)

2 出席者

上智福岡:会長、副会長2名、監事

六甲学院:会長、副会長2名、事業委員会委員長

広島学院:会長、副会長、九州支部顧問

栄光学園:会長、副会長

3 会議の概要、議事等

(1)自己紹介後、各校同窓会の近況をそれぞれ紹介した後、議事に入った。

(2)各議事について、意見交換、議論を行った。議事は以下の通り。

ア 同窓会名簿について

イ 同窓会会則について

ウ 5つの学校法人の合併について

エ その他

各校からの近況として、六甲学院からは、①名簿発行の見直し検討、②伯友会ジュニア(50歳まで)支援、③伯友会75周年を記念した同窓会奨学金検討が、広島学院からは、①役員改選(会長再任)、②広島学院創立60周年記念事業への参画、③地域支部活動の状況と活性化の取り組みが、上智福岡からは、①同窓会名称“上智福岡泰星会”、②名簿作成について、③総会の開催、幹事等についてが、それぞれ報告されました。

名簿については、六甲学院では名簿発行の形式を見直し、個人情報保護のため、氏名住所、電話、勤務先等が記載されている現状を改め、発行する名簿は期と氏名のみ索引名簿とし、これに役員一覧、特別会員名、会則、個人

情報保護方針をセットにした冊子とする。ただし、会員には一定の手続きで他の会員の情報を提供するという方向で運用することを検討中とのことで、平成28年度中にサービス開始を予定しているそうです。広島学院は隔年発行、また上智福岡は、名簿の作成はしたもの30冊程度の印刷とし、基本的にOPENにはしておらず、4,000人程度の情報を把握できたとのことでした。また、名簿に関連して会費についても意見交換が行われ、広島学院からは、終身会費の取り扱いを役員総会で取り上げられたこともあり終身会費制を検討しているとの発言がありました。これを受け、現在終身会費制である六甲学院からは、現状の終身会費徴収方法の説明や過去の経緯、上智福岡や本校同窓会からも現状の説明が行われました。

今回は会議の設定時間が短かったこともあり、名簿と会費についての意見交換ではほぼ予定の時間となってしまいました。また、限られた時間の中で、幹事校の上智福岡からは、学校と同窓会との関係、繋がりはどのような状況かとの問いかけがあり、最後に各校が状況を簡単に説明し、会議を終了しました。



平成27年度JJHAF会議の様子

会則や、法人合併については、改めて来年度の議題に送るとともに、必要に応じて4校同窓会が情報共有していくこととなりました。ちなみに、会議の中で、上智福岡では、男女共学4年目となり現在女子1期生は高校1年生なので、あと2年で卒業となること、同校総会は卒業期+20才の期が幹事を行うルールになっているので、年齢でいうと39才が幹事を行うことになるといった説明がありました。

次回幹事については順番では本同窓会でしたが、翌2017年3月に栄光学園新校舎が竣工する予定であることから本同窓会幹事による開催を1年先送りにする事、また折角なので可能であれば60周年記念事業で講堂と聖堂を建て替えた広島学院に次回2016年度幹事をお願いすることを提案し、各校同窓会にご了承いただきました。

会議終了後、場所を変え、上智福岡からほど近いKKRホテル博多で懇親会が行われ、さらに各校の親交を深めるとともに、会議で議論できなかったことを話題とするなど、議



KKRホテル博多でのJJHAF懇親会の様子

事録には掲載し難い「情報の共有」を行い、大いに盛り上がりました。懇親会からは、上智福岡から増井理事長、オチョワ神父、大石校長、舟橋教頭、光成の各先生と、次期同窓会実行委員長の田村さん、同副委員長の吉永さんも合流されました。JJHAFとしてはかなり若手の田村さんと吉永さんから、同窓会への意気込みを込めた熱いご挨拶もあり、各校は所在地域が異なり、参加者は仕事も年代も違うものの、そこはやはりイエズス会校での教育を受けた者同士、何の隔たりもなく会話は弾み、大いに盛り上がり、時を忘れるほど楽しく有意義な会でした。次回、広島での再会を確認し、午後6時過ぎに散会となりました。



上智福岡次期同窓会実行委員長田村さん(右)と副委員長吉永さん(左)
手前は上智福岡オチョワ神父と六甲校友会の石光会長

2015年度「OBゼミ」

理科教諭・OBゼミ担当 堀 真人(41期)

本校では、高校1年生の選択授業「ゼミナール」の一講座、および放課後の自由参加形式の講座として、卒業生を講師にお招きして「OBゼミ」(正式には「OBゼミ:日本の社会のしくみを考える」)を開講しています。例年、高校1年生の40歳および30歳上の期に講師を担当していただき、現在のお仕

事とその社会的な役割を中心に、これまでの進路・職業選択や後輩である生徒へのメッセージをお話しいただけます。今年度は、高校1年生(66期)の受講生は36名おり、講師は25期と35期の方々をお願いしました。演題と講師の方々は以下の通りです。

25期(4月～11月)

- | | |
|---------------------------------|----------|
| 「エコミストの仕事とは」 | 高田 創 氏 |
| 「がんのゲノム医療の話と、16才の時の不安、そして40年」 | 吉田 輝彦 氏 |
| 「横型人材の奨め&研究者という商売」 | 古田 一雄 氏 |
| 「天文学者になりたかった」 | 深澤 哲朗 氏 |
| 「巨大法律事務所の弁護士はどんな仕事をしているか」 | 仲谷 栄一郎 氏 |
| 「広告の広告 ～人の気持ちを動かす仕事～」 | 角田 誠 氏 |
| 「日本での建築、世界での建築」 | 崎山 茂 氏 |
| 「日本の外交」 | 秋葉 剛男 氏 |
| 「外資系企業での研究者という生き方 ー電子材料開発の30年ー」 | 長谷川 雅樹 氏 |
| 「私たちが生きていく少子高齢社会」 | 森 義博 氏 |
| 「日本の食マーケットに挑む」 | 山本 泰生 氏 |
| 「テレビ業界を勧められるのか」 | 成合 正和 氏 |

35期(11月～3月)

- | | |
|---|----------|
| 「総理官邸から見た日本の国際広報」 | 金子 正志 氏 |
| 「人文学の近代ー近代日本語史から考えるー、高1授業「辞書の近代ーことばの規範とはなにかー」、放課後 | 安田 敏朗 氏 |
| 「外科胃腸科医の仕事」 | 一色 聡一郎 氏 |
| 「弥生が起業を応援するワケ」 | 岡本 浩一郎 氏 |
| 「デザイナーという仕事 ～障がい者、コンフリクト、そしてユニバーサルデザイン～」 | 桑波田 謙 氏 |
| 「Creative Alchemy アイデアとは錬金術である。」 | 木村 健太郎 氏 |
| 「仕事としての宇宙」 | 蒲原 信治 氏 |

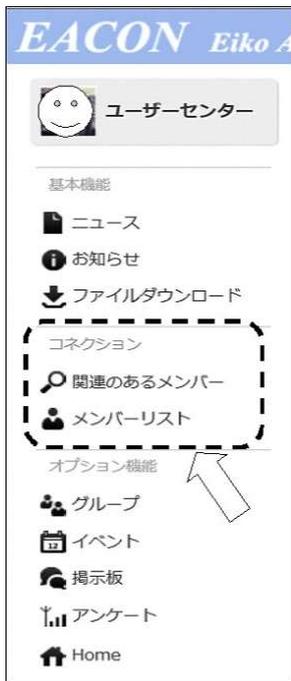
OBゼミでは、さまざまなお経歴、ご職業の先輩方のお話を通して、在校生が社会のしくみや将来の仕事について考える機会をいただくことができました。この場をお借りして、改めてお礼を申し上げます。また、来年度は26期、36期が講師を担当していただく期となります。今後とも卒業生の皆さまおよび同窓会のお力添えを賜りますよう、お願い申し上げます。

EACONを使う(4)

広報部

EACONを導入した背景のひとつに名簿の電子化を目指すということがあります。すでにEACONを使い始め、ご自身のプロフィールを確認、訂正いただいている方もおられると思いますが、EACONでは各自が自分の名簿データを変更できますので、2年に一度発行される「紙の」名簿を待つことなく、記載事項の変更をタイムリーに行えるという利点があります。

また、名簿を使って卒業生のことを調べる際にも、電子版として数々の有意義な使い方が想定されています。



まず、パソコンもしくはスマートフォンが手元があれば、EACONにログインすることで名簿が使えます。外出先など「紙の」名簿がなくても名簿検索が可能です。

次に、プロフィールとして入力されている様々なカテゴリで検索を行うことができます。名前や学年から検索することはもちろん、大学名、勤務先、住所、クラブ活動などからの検索に威力を発揮します。

名簿検索の使い方は以下の通りです。まず、EACONにログインしますと、左側のメニュー欄に「コネクション」として「関連のあるメンバー」と「メンバーリスト」というメニューが表示されています。

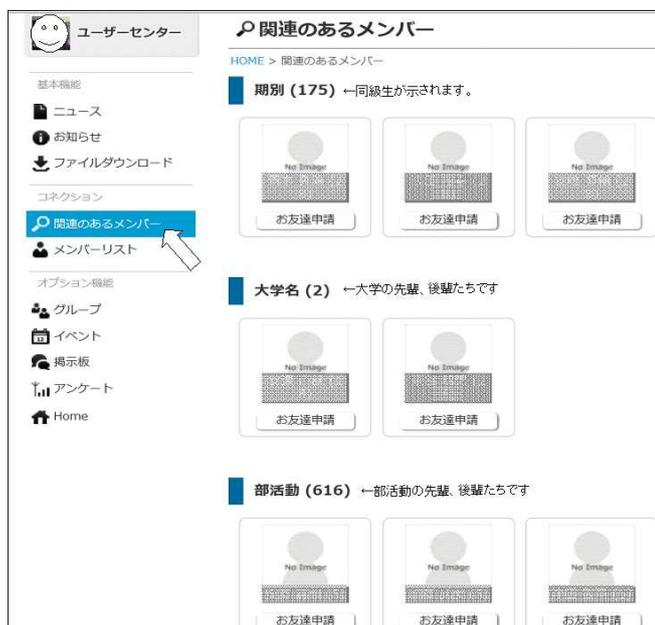
「関連のあるメンバー」はご自身のプロフィールに照らして

自動的に同じ学年、同じ大学、同じ部活動の方をそれぞれ検索した結果が表示されます。

「メンバーリスト」は表示される項目の空欄に名称を記入して「検索」ボタンをクリックすると該当する卒業生が検索項目の欄の右側に表示されます。



ここで注意が必要なのは同じ大学名、企業名であっても各人のプロフィール欄への記入方法がまちまちであるため、ひとつの呼称では検索結果としてヒットしない可能性があることです。例えば、東京大学(ヒット数:333名)と東大(同1847名)。早稲田(同254名)と早大(同811名)、早稲田大学(同82名)など。あるいは銀行名など当初の名簿登録情報がそのままEACONに記載されている場合、第一勧業銀行(同12名)など、旧銀行名のままのケースもあります。



操作方法は以上ですが、このEACONの名簿としての機能を充実させるには、各人がプロフィールを適宜更新することが前提になっていることがお分かりいただけるかと思います。すでに、THE EIKO ALUMNIにおいてもプロフィールの変更方法をお伝えしております。

母校の様子

「学園通信」より

内山正樹(9期)

1. 二学期始業式

新校舎の建設に向けて夏休みに旧校舎の取り壊しが始まり、2学期から仮校舎での学園生活がスタートしました。始業式での望月伸一郎校長の話の一部を紹介します。

いよいよ、2015年度の二学期が始まりました。新しい校舎の建設に向かって、栄光学園という大きな船が港を出たような気がします。確実に新しいステップに踏み出しました。今まで毎日使っていた校舎にフェンスがかけられて、慣れ親しんだ校舎に入ることはできなくなってしまいました。今日初めて仮設校舎に入った人も少なくないでしょう。新しい学校に転校したような気持ちになった人もいるかもしれません。その不思議な気分というのは、ここに集まっている皆が持っているものです。自分だけではないので安心して生活を送りましょう。

先学期の終業式で、私は皆さんに、校舎へのお別れに感謝を込めて最後に思い切り教室をきれいにしましようといいました。その日の夕方、皆さんが帰ったあと、私は校舎の中のすべての教室を見て回りました。残念ながら靴箱やロッカーの中に私物が残っていることもありました。心当たりがある人は、今度、仮設校舎から新しい校舎に移るときには気を付けてください。私物が残ってはいましたけれど、教室の床はとてもきれいになっていました。それを見て感激しました。私も夏休みの最後の日、校長室の荷物を段ボールに詰めた後、一人で雑巾がけをしました。君たちに刺激されました。

古びてきていても、いつも身の回りにあって親しんできた校舎に別れを告げるといのは、正直、寂しいものです。新しい校舎に慣れるには時間がかかるかもしれません。なんとなく気持ちが不安だ、落ち着かない、イライラするとかいう人がいたら、遠慮なく担任の先生やほかの先生に相談してください。君たちの言うことに耳を傾けてくれるはずです。決して一人で抱え込まないでください。

本校舎の各教室を回ったときに黒板アートも見ました。参加総数は17教室だったかと思います。上手とか下手とかを超えて、何よりも君たちの校舎に対する感謝が伝わってきました。校舎は生き物ではありませんが、もし命があるとしたら最後に飾られて、とても幸せだったと思います。

2. 囲碁将棋部 関東大会優勝！

囲碁将棋部の将棋グループは全国大会に出場し、関東大会では見事優勝しました。キャプテン 瀧上偉心君(65

期)のレポートを紹介します。

今年の夏休みは大会や合宿など、将棋行事の多い充実したものでした。その詳細について、ご報告させていただきます。

7月28・29日に、滋賀県で行われた全国総合文化祭に出場しました。県予選大会を何とか2位で突破し、全力で臨んだ2回目の全国大会でした。初めて参加した大会では気持ちで負けていた反省から、積極的に攻めることを意識し、負けそうになっても堂々とした態度を保つことで最後まであきらめないように戦いました。それでも、大会参加者約100名のうち32名が選抜される予選で4戦中2勝2敗の結果で、本戦出場にはあと1勝が足りませんでした。さすが全国大会、厚い壁でリベンジは叶わず。

8月23日には、もう一つの大会に参加しました。東京で行われた関東高校リーグ、将棋団体戦では珍しい5人1組と多いメンバー数で戦う団体戦です。将棋部としての実力が問われます。関東圏の将棋強豪校が30校ほどしか参加できません。栄光学園はその中でも最上位のA級に属しています。A級グループ参加校は開成、浅野、筑波大駒場、日大三島、桐朋、栄光の6チームで、リーグ戦で競います。1戦目に当たった開成には惜しくも負けてしまいました。そこから奮起、5人の力を結集して相手を倒して破竹の4勝です。2位以下との差をはっきり見せて、単独優勝という結果を得られました。メンバーは66期森本、車谷、井上、65期花田と私の5人です。皆安心して背中を預けられる仲間であり、関東大会で優勝できて本当に嬉しく思います。

最後になりましたが、将棋の練習に打ち込めるように支えてくださった顧問の廣井先生、小谷先生。そして、全国大会、関東リーグ大会の時には暑い中引率して下さった石川先生に心からお礼申し上げます。

本当にありがとうございました。

3. 第65回体育祭

工事が進む中、秋晴れの下で第65回体育祭が行われました。実行委員長 金沢直晃君(65期)のレポートから抜粋して紹介します。

今回の第65回体育祭のスローガンは「Arrow」(矢)、「矢のように真っ直ぐ突き進んで行きたい」という願いを込めました。仮校舎に移り、工事期間中初の行事ということで、始めは今まで違うことに混乱しましたが、先生や工事関係者の方のおかげでほぼ例年通りに準備を進めることが出来ました。かなり思い切った競技変更やオリジナルテーマソングの作成など、新たな時代への橋渡しとして伝統を引き継ぎながら、新しい取組みにも挑戦しました。

閉会式の直後、もっとこうしていれば良かったといった後悔や、もっと上手く出来た筈だといった悔しさが込み上げ、泣けばいいのかどうすればいいのか分からずにいました。すると先生や友達に「良かったよ」とか「頑張った」とか声をかけられ、胸の奥から達成感がわき上がってきました。暫くして落ち着いて来ると初めて実行委員会に入った2年前のことや、実行委員長になろうと決意し奮起した日のこと等が思い出されました。

実行委員長になってから体育祭までの日々を振り返ってみると、「矢のように真っ直ぐ突き進んできた」、というよりは自分には出来ないことをそれでも何とか成し遂げようともがいてきた、という感じです。ことある毎に自分の無力さを痛感し、実行委員長の責任の重さに押しつぶされ、先生や幹部、実行委員の皆等々沢山の方の支えのおかげで進んで来ることが出来ました。色々なことがありましたし、多くを学び、とても貴重な経験をさせて頂きました。多大なご協力を頂きました矢口先生をはじめ体育科の先生、高2の担任団を中心とする先生方、事務、工作、救護の方々、体育祭を行えるようお計らい頂いた工事の関係者の方、体育祭を盛り上げてくれた栄光生、ご来場頂いた皆様、ありがとうございました。

一緒に体育祭をつくってきた実行委員、応援団の皆、部門長の4人と応援団長の4人どうもありがとう！第65回体育祭にこれ以上無い最高のメンバーだったと思います。これからもそれぞれの目標に向かって矢のように突き進んで行きましょう。

本当にありがとうございました。

4. 科学の甲子園 神奈川県大会優勝！

物理研究部と生物研究部は科学の甲子園神奈川県大会に参加し、5年連続5度目の優勝を飾りました。

10月25日(日)に筆記競技、11月3日(祝)に実験競技と総合競技が行われました。

今年から各校最大2チーム(各チームは高1～高2の6～8名)がエントリーできることになりました。

理科と数学と情報分野からの筆記競技、無機定性分析が出題された実験競技、コーヒーフィルターを用いてゆっくり正確に落下させるパラシュートの製作が課された総合競技を通して、終始成績の安定していた栄光学園高校Aチームが優勝、筆記競技で大健闘の栄光学園高等学校Bチームが準優勝という最高の結果でした。

県の代表校として、3月18日(金)～21日(月)に茨城県で行われる全国大会に選抜8名で出場することになりました。

昨年以上の順位を目指して頑張りますので、去年に引き続き応援をお願いします。

広報部補足：

2016年3月21日に行われた科学の甲子園全国大会で栄光学園高等学校チームは見事準優勝を納めました。

5. 釜ヶ崎体験活動報告

毎年年末に大阪市西成区あいりん地区(通称「釜ヶ崎」)に望月校長他教員の引率の下聖書研究会の高校生が3日間のボランティア活動に参加しています。この活動は日常的に支援を行っている地元のイエズス会の団体の活動に参加する形で行われ、昨年暮れも13名の高校生が広島学院の生徒たちと一緒に参加しました。活動報告の中から高1(66期)仲野比呂司君のレポートを紹介します。

今回の体験で自分は学ぶことの大切さに触れた。もともと中学生のときから興味があり、行こうと思っていたためホームレスや日雇い労働者に関する本や記事は読んでいて、多少は知っているつもりだった。ある程度釜ヶ崎に対するイメージは持っていたが、ほとんどが間違っていた。新しく知ることばかりでこんなにも一致しないことは始めてだったので戸惑いもあった。ボランティアは弱い立場におかれている人を助け、社会に貢献するものと思っていたが学びの場であることを知った。実際に行ってみるとわかることはとても大きなものだ。

釜ヶ崎は自分が思っていたよりも人が多く、小さかった。しかし想像以上に町はきれいで人は明るく、なによりも団結力があつた。神父の講義によると釜ヶ崎は全国からの支援がある。もっと厳しい生活を送っているのは小さな都市で独り生活している人で、釜ヶ崎は受け皿の役割もはたしている。近隣の小学校では講義や募金があつて、もっと多く学び考えている。

釜ヶ崎で見聞きし、感じたことはこの機会を逃せば後から学ぶことのなかったものだった。記憶に残すだけでなく今後活かしたい。しかし今回は現実を知っただけで、もっと深く知ることはできるはずだ。機会があればもう一度参加したいと感じている。

栄光メサイア・ソサイエティ(EMS)

飯野習一(19期)

卒業生、生徒・卒業生の保護者などをメンバーとする合唱団を中心に活動しています。代表は29期の森田真さん、指導は元栄光学園音楽科で、群馬大学教育学部教授の吉田秀文先生です。2003年から毎年12月にヘンデル作曲「メサイア」を演奏してきました。また2010年にはブラームス「ド

イツ・レクイエム」、2012年にはブルックナー「ミサ曲第3番」、2014年にはモーツァルト「レクイエム」の演奏会を開催しました。

最近のコンサートの報告です。

2015年12月13日(日)、栄光学園聖堂にて
ヘンデル「メサイア」全曲

藤崎美苗(ソプラノ) 田村由貴絵(アルト)
水越 啓(テノール) 大井哲也(バリトン)
吉田秀文(指揮)
栄光メサイア・ソサイエティ合唱団/アンサンブル

2016年3月20日(日)、栄光学園聖堂にて

J. S. バッハ「マタイ受難曲」BWV244(第一部)
藤崎美苗(ソプラノ) 田村由貴絵(アルト)
豊原 奏(テノール) 大井哲也(バス・イエス)
菅井寛太(ペトロ) 小野慶介(ユダ)
吉田秀文(指揮、福音史家)
栄光メサイア・ソサイエティ合唱団/アンサンブル

合唱団のメンバーを募集中、特に男性メンバーは大歓迎です。メサイア入門コースもありますので、経験のない方でも参加可能です。

詳しいことは飯野(shoooops@gmail.com)までお問い合わせください。

栄光Royalがダブルダッチ・コンテスト世界大会のU-19を制覇

広報部

栄光Royal(体操部ダブルダッチ班)の2チームが3月20日に日本体育大学メインアリーナで開かれたダブルダッチ・コンテスト日本予選(DDCJ 2016)を突破、翌21日に東京ディズニーリゾートの舞浜アンフィシアターで開かれた世界大会(DDCW 2016)で、U-19の2部門のタイトルを独占した。



DDCW2016 ポスター

“ROYAL BRAIN”は中3(67期)、3人のチーム。日本予

選でU-19のパフォーマンス部門を1位で突破。翌日の世界大会でも、技術力・表現力・構成力・独創力の全ての審査項目で他チームを制し、みごと世界チャンピオンに輝いた。

“ROYAL UNITED”は中2(68期)、中3(67期)、高1(66期)、高2(65期)各1名の4人のチーム。U-19パフォーマンス部門では惜しくも予選通過ならず、しかしU-19スピード部門(チームの代表3名で、30秒間でジャンプした数を競う)で予選を突破。世界大会で、みごと同部門の世界チャンピ



チーム“ROYAL BRAIN”と古賀慎二先生
(なおチーム“ROYAL UNITED”との表彰後の記念撮影は「撮り忘れました」とのこと)

オンに輝いた。

栄光Royalのパフォーマンスは例年栄光祭でも注目の的となっています。さあ、世界一の技を見に、5月14～15日の栄光祭へ。

脳腫瘍と闘う少年音楽家 加藤旭君(66期)の話題

島崎裕之(26期)

2015年11月1日(日)、銀座ヤマハホールにて、アーツ室内オーケストラ2015銀座定期公演IV『夢に向かって』～大友直人Conducts “With the Sky” by 加藤旭&熊倉優～ が開催された。当日は加藤君の同級生、66期(高一)を中心とする現役栄光生・父兄・先生方が多数訪れ、会場は満員の盛況であった。

コンサート中盤に、観客席に車椅子姿の旭君が登場すると、ピアノ・ヴァイオリン・弦楽オーケストラの『空を見上げて』(同年5月に発売されたCD『光のこうしん』収録曲などより「空」モチーフの5曲を編曲)、その後アンコールにて郡山市立朝日が丘小学校の児童により、『くじらぐも』が合唱され、

旭君も惜しめない拍手を送った。

新聞社・テレビ局の取材もあり、その後当コンサートを始めとする旭君の様子は、NHKの視覚障害ナビ・ラジオ『いのちの音に耳をすませて』、テレビ朝日『スーパーJチャンネル』等でも放送された。彼は春より視力をほぼ失い、車椅子の生活になっているが、その後体調も安定、リハビリに専念している。如何に彼が音楽を愛しているか。そしてそれにより自身が元気になり、かつ周囲・難病と闘う子供たちに力を与えているのであろう。



加藤旭君の作品集『光のこうしん』

このコンサートの売上の一部は難病と闘う子供たちに寄付される。『誰かのために役に立ちたい』、現役栄光生の「Men for others」の精神・行動に、私と家族・バドミントン部OB会・同窓会も引き続き全力で応援してゆきたい。

熱き栄光親父たちPART2 (父親のための聖書研究会活動報告)

島崎裕之(26期)

1. 第2回『栄光ヒュッテ』合宿(9月12、13日)

昨年は『荒天』にやられたが、今年は『好天』に恵まれた。昨年よりやや少ない15名の参加。



栄光ヒュッテ合宿

2週間前の下見にて堀真人先生より『大雨のあとは取水口が詰まり、断水になる可能性が高い』との説明を受けていたが、数日前のダブル台風で絶望的と予測し、参加者に

『ポリタンク』の用意を依頼した。やはり現地は断水。しかも川の水量増加も手伝い、取水口まで行くことが危険な状態だったため、『ポリタンクリレー』で乗り切った。

今回は『ヒル』の犠牲者は出なかったようだ。昨年と同様我々幹事団がああだこうだと指示する必要もなく参加者がテキパキと動き、事故もなく1泊2日のイベントは完了した。せっかく丹沢まで来てというので、来年は『ハイキング』もという声が多かったが、一日目の酒量をいかに押えるかが課題である。

2. 体育祭(10月3日)『綱引き』

一昨年の勝利も、昨年は体育祭責任者の矢口先生の参加者人数調整の陰謀にマンマと引っかかり、現役体育祭実行委員会に大敗を喫してしまった。しかし本当の敗因は、この綱引きのために作製した『Tシャツ』の色にあった。

一昨年のTシャツの色は『えんじ色』に対し昨年はシルバー、つまり灰色(敗色)これがいけなかったなあ。なら今年は『オレンジでリベンジだあ!』となった。

試合前段で『今年は公平に正々堂々と勝負しよう!』と矢口先生にも念を押し、Tシャツの背中にも『綱引きでもフェアプレー』のキャッチを入れ、勝負に臨んだ。

結果は大勝!しかし実行委側が再試合の要求をしてきた。私の圧力(いや申し出!)に遠慮して、選手数を控え過ぎたようだ。2度目は敵が戦力を強化したが、接戦で辛勝!直前に綱引き勝利マニュアルを配布し、徹底したことが功を奏したか。祝勝会も大いに盛り上がった。



体育祭綱引きのTシャツ

3. 歩く大会完歩

前年は63期の親父たちが、子供たち最後の大会との事で数名が完歩。それならと今年是有志を募り、10月30日、平日にもかかわらず7名が江の島水族館⇒小田原城の現役栄光生のコース約33kmを完歩した。

私が現役のころは、丹沢のふもと、山北～高松山～三廻部～上智短大のコースだったが、今は海沿いで平たん。楽勝かと思っただが、さすがに若い時には行かない。かつ日ごろの不節制&不摂生、運動不足もあり、ゴール手前では最後にスタートした中一の子供たちに抜かれ続けたも

の、ゴール期限16:00寸前(やや遅れたかも)にゴールインした。

ゴールイン後は、スーパー銭湯につかり、向かいの居酒屋で完歩祝い。「来年も歩くか?」「いやあ、もう勘弁だ。」翌日の筋肉痛はいかに?

お母さんたちも歩いてはいたようだが、皆数キロ歩いてランチ。完歩はいなかったようだ。



(歩く大会 見事にゴール!)

4. 黙想会

毎年2月の聖研は、十二所にある鎌倉黙想の家にて1泊2日の黙想会を実施。普段ワイガヤとやっているやんちゃな親父どもも、この2日間は寡黙になる。聖書を読み、個室で祈りをささげて黙想に専念する。心が洗われる二日間である。

5. 母親たち

母親の聖書研究会である『金曜会』では、10月に甲府教会を訪問、9期の田代神父にご案内いただいた。その他ボランティアを中心とした『たんぼぼの会』等、活発に活動している。

6. 来期へ向けて

私も聖書研究会を始めてマル4年。息子も今年高二になり、私も来期は代表幹事を務める事となった。実はその直前、3月26日のイースターに私自身も受洗する事となった。本誌が紙面のアラムナイとして発行される時点では、私も信者となっている。もともと信者であるお父様な何人かいるが、聖研会員での受洗は私を知る限り初めて。この歳になって、現役の栄光生とともに洗礼を受けるのもいささか照れくさくもあるが。

引き続き聖研活動を通じ、学園とのパイプを強化し、また世間にも貢献し続けてゆきたい。

恩師のこと

ドイル神父叙階50周年お祝いの会

花井勝三(12期)

10月17日(土)夜、ホテルプラムにてドナルド・ドイル神父司祭叙階50周年のお祝いの会がありました。上智大学OB&OGの有志が主催したのですが、ドイル先生が教鞭を取った栄光学園と広島学院OBにも参加の呼びかけがあり出席しました。

ドイル先生は1958年26歳のときに初めて来日し当時田浦の栄光学園と同じ構内にあった日本語学校で2年間日本語を学び、1960年(12期は中3)から1962年にかけて2年間栄光学園で英語を教えました。12期生は異国で先生が教える最初の生徒だったようで、このアイルランド出身の先生に強烈ではないものの忘れ難い思い出があり、8名、出席しました。他にドイル先生と何らかの繋がりがあった13期生、24期生、40期生も出席し、オール栄光では12人の参加でした。

会のレポートからちょっとそれ、先生がどうして日本に来られたかを中心に先生の略歴に触れてみます(先生の手記、“WHY JAPAN?”より)。

先生は1931年10月11日アイルランドに生まれ、1948年、高校生時代に「フランシスコ・ザビエル」と出会い、1951年9月にイエズス会に入会し、1953年にフランスに留学し、1955年にアイルランドにて哲学を学びました。この後いよいよイエズス会士としてどこかの任地で働くことになり、管区長が決定します。当時3つの可能性があったそうですーアイルランド、ザンビア、香港。先生はそのどれでもなく、不安が一番大きいながら運命的に日本で働くことを希望されたそうです。そして幸か不幸か希望が叶ってしまいました。当時アイルランド人が日本に赴任するのは文化交流どころではなく、地球の端から端の辺境に行くようなものでした。ご両親に相談することなく日本行を決めたそうで、後に手紙でこのことを知らされたお母様は「ショックを受けたなどという穏やかな表現で伝えられません」、お父様は「爆弾を落とされたような衝撃」と述べています。お父様は家族に明かさなかったそうですが余命1年半の病気を抱えていたそうで、1958年二度と会えないと知りつつ息子を旅に送り出しました(お父様は頑張られましたが、1961年、先生が田浦にいるときに亡くなられたそうです)。

先生は1958年7月3日にナポリ港を出発、海路スエズ運河を経由してアデン(南イエメン)、ポートサイド(エジプト)、カラチ(パキスタン)、コロンボ(セイロン=スリランカ)、ボンベイ(インド)、シンガポールの各港に寄港し3週間後到着予定で香港に向かわれました。ヨーロッパから徐々に遠くへ遠く

へ離れるにつけ、極東の意味がわかってきたそうです。香港に滞在した後、9月3日に横浜港に着きました。そして、田浦における日本語学校での勉強と栄光での英語教育に入られました。

田浦での4年間の後、先生は、1962年8月18日、神学の勉強のため今度はジェット機で故国アイルランドに戻られました。当時の栄光ニュースフラッシュにご帰国を報じる記事があります。

二年間、わが校で教鞭をとって滞り始め、先生は一階帰国の途におられたドイル先生は、神学の御勉強のため、八月十八日、東京国際空港から故国アイルランドにお帰りのなされた。

当日はドイル先生が敬えておられた中二の生徒をはじめ修院の神学生の方々を合わせて、百五十人以上の人がお見送りにやってきました。栄光生がさかんに手を振る中を、先生は四時五十分頃、エプロンに入って来た、パン・アメリカンのボーイング707機のクラブプきのぼられた。先生もしきりに手を振られ非常に名残惜しむようであった。

五時近く、707機は滑走路を

ドイル先生

ジェット機で御帰国

二年間、わが校で教鞭をとって滞り始め、先生は一階帰国の途におられたドイル先生は、神学の御勉強のため、八月十八日、東京国際空港から故国アイルランドにお帰りのなされた。



クラブプを登られるドイル先生

1962年10月4日発行 栄光ニュースフラッシュ105号

先生の希望でもあったでしょうが、お母様や家族がいる故国で勉強させようとの人間味ある計らいがあったことは容易に想像できます。先生もこの4年間は特別だったと述懐されています。

1965年7月29日 司祭、叙階。

1967年 広島へ。1968年から広島学院で英語を教える。

1977年、東京へ。上智大学にて一般英語を教え始める。

(以降の先生のキャリアはここでは割愛します)

さて、お祝いの会に話を戻します。当日は先生を慕う100名以上の出席者があって先生の司祭叙階50周年をお祝いしました。駐日アイルランド大使のアン・バリントンさんも駆けつけました。金祝に先立つ9月、先生は長年の日本での学生教育がアイルランドに大いに貢献したとしてアイルランド大統領殊頭章を受けられたので、そのお祝いもしました。また10月は先生の誕生月でもあるので併せて祝いました。正にお祝いの三重奏でした。

幹事の女性スタッフはきめが細かく、料理にアイルランド料理を加えたり、小ぶりながらバースデケーキを用意した

りして、先生をもてなしました。

私にもスピーチの割り当てがありましたので、栄光OB10,000名のお祝いの気持ち、先生に英語らしい表現を教わったことへの感謝、田浦でお別れして以来53年ぶりに再会できたことへの幸運や喜びの気持ちをお伝えしました。



栄光OBとの記念撮影

ドイル先生は終始控えめに嬉しそうでした。それでもシャイな先生の精一杯の喜びなのだと思います。先生が司式された結婚式で新生活に入ったOB、OGは数多く、先生はそういった人たちを壇上に呼ばれました。そして一言こう訊きました。“Are you happy?” 答がコーラスのように会場に響きました。→”Yes!”



縁結びした教え子たちと。Are you happy? Yes!

いい雰囲気はずうっと会場を包んでいましたが、惜しむらくは時間が足りません。

出会いを大切にされたというドイル先生のお話、先生の英語教育に感謝する幹事のご挨拶を拝聴し、先生の好きな聖歌を歌って閉会となりました。

出席者の一人である坂野正崇氏(40期)の感想を記して、このレポートを終わります。

「先生は、初めてお会いした34年前と変わらず、チャーミングで格好よく、優しい眼差しで、会場に入って来られました。今回のお祝いの席に集まれた方々が、先生との御縁を、長きに渡り大切に育まれて来られた事が、何でもない会

話からも、十分に伝わって来ました。

人と人の出会いをとっても大切にされて来た Doyle 先生。益々、お元気なご様子に、これからも先生を通じて、様々な縁が生まれるのだらうと感じた、幸せな夜でした。」



記念撮影

青木先生、Doyle 先生を訪問 歴史的対面

広報部

10月17日、お祝いの会に先立ち青木利道先生(栄光学園元教諭)が会場に足を運ばれ、Doyle 先生と歴史的対面を果たされました。両先生は田浦時代に親交がありましたが、それ以来のご対面ということでした。



Doyle 先生、中央。両隣り青木先生ご夫妻

青木先生はお祝いの会に祝辞を寄せられました。記念の小冊子に掲載されたものを、許可を得て、アラムナイとホームページに掲載します。

Quote:

ドナルド・Doyle 先生

Doyle 先生、司祭叙階50年の金祝、おめでとうございます。

先生は本当に長い間、英語教育をとおして、日本の青少年に人格的成長の基となる「神の国」の種を蒔いてくださいました。その種は今、実を結びつつあり、卒業生たちは喜びのうちに社会への奉仕に力を尽しています。

栄光学園で一緒に働いている時の楽しい思い出が心に浮かびます。栄光において多くの同僚の教員や生徒たちと出会えたこと、とくに、外国から来られた多様な国籍の司祭、神学生がたに会い、多くのことを学べたことは私の人生の宝です。

とくに、お二人のアイランド人に出会えたことも、忘れえない喜びです。そのお二人は言うまでもなく、ブルカ先生(上智ではバーク先生)とDoyle 先生です。ラッシュ先生も一緒にでしたでしょうか、私の家で楽しい時を過ごしたことも懐かしい思い出の1ページです。

ブルカ先生の、「アイランドは世界の中心、アイランドの英語こそ真の英語、アイランドは美しい国」という言葉にひかれ、私自身、2002年の夏にアイランドを訪れ、とくに南部地方を廻りました。ダブリン空港に着いた時、まさにアイランドが中心に置かれている地図を見てビックリしました。ここからきているのか、と納得しました。そして美しい国を味わいました。

Doyle 先生、私も6年前に金婚式を迎えました。ちょっと古いですが、その時の写真を添えます。今は、13人の孫を持つ、じいさん、ばあさんです。

私は間もなく86歳を迎える高齢者になりました。加齢にともない、自由に歩き回ることの不自由を感じています。でも、脚以外は元気で、神のお恵みの内に、所属教会で聖書講座、入門講座を担当し、横浜教区典礼委員会の一員として活動し、梅村司教が理事長を務める学校法人の理事として働いております。

神のお呼びがあるまで、精一杯奉仕したいと努めています。

先生もお元気に、これからも日本の若者のためにご活躍ください。

先生と先生のお仕事の上に、神のお恵みと祝福を祈っています。

司祭叙階50年、心よりお喜び申し上げます。

青木利道

Unquote:



〔追悼〕大木先生



2005年12月10日撮影

坂本 隆 (17期)

友人からの訃報はメールで、文字通り虚を衝かれた。だって、先月会った時はあんなに元気だったのに。

大木章次郎(あきじろう)神父。90歳を目前にして、昨年11月に帰天した。僕が最後に会ったのは10月の初めだった。「大木神父応援団」のようなグループで5年前に語り下ろしの『大木神父奮戦記』を自費出版した。その関係者が、大木先生を囲んで小さなパーティーをやるというので、編集を担当した僕にも声がかかった。大木神父は「伊万里の聖母修道院」に指導司祭として赴任していて、健康診断のために一時帰郷している、という話だった。場所はイエズス会石神井修道院、と聞いて気づくべきだったのだ。此処には使命を果たし終えたイエズス会士が晩年を過ごす「ロヨラハウス」がある。

この日の大木さんは、とても90間近には見えない相変わらずの風貌、笑顔とおしゃべりで皆を笑わせた。女子修道院の時代遅れの習慣やら、ネパール時代の武勇伝やら。僕には、「奥さんもお連れくださいと言ったのに、何故キミは一人で来たのか」と、得意の皮肉もチクリ。一杯のシャンパンを美味しそうに飲み、カナッペにも手を出していた。

健康診断の結果を尋ねると、「何故かみんな私を病気にしたがるんだよな」と笑った。神父が日常生活で着用するスルタン、秋も深まるこの時期は黒がふつうなのに、この日はパリッと洗濯された夏用の白を着ていた。後で思い当たっただけで、皆と最後のお別れのつもりだったのかもしれない。

11月の初め、通夜と告別ミサは四谷のイグナチオ教会で、何十年ぶりという者も含め、多くの旧友たちが顔を揃えた。大木先生は、カトリック修道会のイエズス会が経営する男子校で、中学1年から高校1年まで僕たちの訓育指導に当たった。身体つきはどちらかと言えば華奢で、今で言うイケメン。やたら目力が強く、一方でソフトな語り口。通夜の後の飲み屋で皆が口々に明かしたのだが、当時、僕たちの母親連中

はみんなひと目でポオーツとなっていたみたい。

でも、生徒にとっては口うるさい嫌な教師だった。「男なら泣き言を吐くな」「自分のことは自分でしなさい」「人を指さしてもものを言っはいけない」などなど。もっとも、その頃からズボンやYシャツのアイロンがけを習慣づけられたお陰で、今になって助かっているんだが。忘れられないのは、夏、海の家での遠泳訓練。伴泳しながらも、波を被ってちょっと水を飲んだくらいでは助けてくれない。自力で泳ぎ切れ、という教えだったのだろうけれど、あれは苦しかったなあ。

前述の語り下し本で大木さんはこう語っている。〈私はね、「軍国主義に感謝してます」と父兄に話したんです。「それによって、わがままは許されないということ、そして頑張ることを学びました。それを皆様の息子さんにも自信を持って指導します。よろしいですか?」って。〉

改めて、大木章次郎とはどのような人だったのか。

大正15年(1926)1月3日生まれ。海軍軍人の祖父、熱心なカトリック信徒の両親という家庭環境で、主に横浜で育った。7人いる姉妹の多くが、後に修道女となっている。10歳の年に2・26事件があり、翌年には盧溝橋事件が勃発した。そして太平洋戦争が始まった翌年、上智大学の予科に入学した。昭和18年には学徒動員で先輩たちが戦場に送られた。21歳での徴兵制があり、学生も軍隊に行くのが当然という時代である。やがて徴兵年齢が引き下げられ、19歳から志願できるようになった。大学生から志願すれば、すぐに将校待遇だ。昭和20年の2月、予科3年19歳で海軍士官の試験に合格。翌3月に東京大空襲があり、ひと晩で10万人以上が犠牲となった。

入隊先は広島の大竹にあった海軍潜水学校である。憧れの士官用軍服、軍帽、短剣を支給されたまではよかったが、暫くすると上官から特攻志願を募る言い渡しがあつた。「行く覚悟のある者は申し出よ」とは言うものの、志願しなかった数名は毎日、顔がボールのように膨れる鉄拳制裁を食らった。大木さん本人は、上智時代の神父の「友のために命を捧げるよりも大きな愛はない」という教えが頭にあり、迷わず志願した。海軍の場合、魚雷に人ひとりが乗り込めるように改造した特攻兵器「回天」。若者たちは「貴様らの命はあと4か月だ」「3か月だ」と言われながら訓練を続けた。そして8月6日、広島に原爆投下。潜水学校は爆心地から離れていたが、その日の午後には焼け爛れた人の群れが、広島から歩いてやってきた。地獄を目の当たりにした日から1週間あまりで、終戦。

横浜に帰った頃には、すでに心は決まっていた。特攻を志願した時から、万が一、生き延びることがあれば、それは神が自分を神父として用いようとしている証だろう、という思いがあつた。学生時代から縁のあつたイエズス会に入会。修練院での基礎学習が2年、ラテン語学習が2年、スコラ哲学

が3年、試用の実務1年、最後に神学を2年。入会から10年、勉強漬けの生活を経て大木さんは神父となる叙階式の日を迎えた。

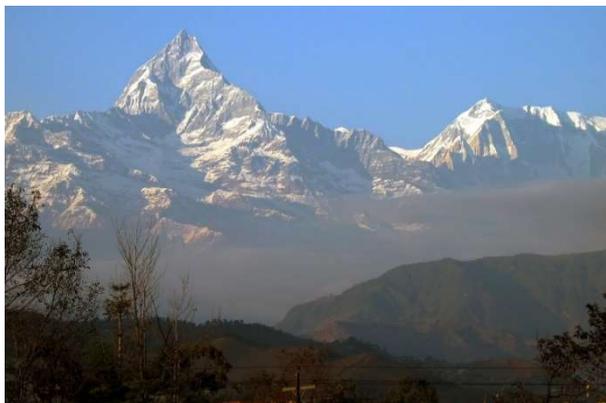
神父であり教師としての最初の赴任地が、当時は横須賀にあった前述、僕たちの男子校だった。10年後、今度は同じイエズス会が経営する広島男子校へ。此処でも中学・高校の悪ガキたちを相手に、倫理の授業と訓育指導を受け持った。そしてさらに10年後、ネパールからの求人に応じて、カトマンズ行きを自ら志願した。すでに51歳になっていた。

ネパールはヒンドゥ教の国で、厳しいカースト制度によって縛られている。むろん他宗教への布教は禁じられていた。赴任したセント・ザビエル・スクールは、最上階層の子弟が集まるエリート校だった。2年間勤務したところで、いくつかの偶然が重なって、大木神父は次のミッションに向かった。カトマンズから西へ200キロ。ネパールの第2の都市ポカラに、障害児のための教育センター「シシュ・ピカス・ケンドラ」を創る仕事だった。体育や知育のカリキュラムから医療設備、手作り補聴器まで、大木神父は自力の創意工夫を総動員して障害児たちの自立をサポートした。

1990年代の後半になると、ネパールではマオイスト(毛沢東主義派)によるテロが横行し、カトリック系の教育施設も標的になった。麻薬中毒患者を更生させる活動を続けていた友人の神父が、首を切られて殺害された。その前には、仏舎利塔の建設に尽力していた日蓮宗の日本人僧侶が殺されていた。そして脅迫電話が、大木神父の施設にもきた。「次はおまえの番だ」。本人の機転と周囲の協力で、何とか事なきを得たのだった。

その後も託児所や診療所を開設するなど、大木神父は30年におよぶ活動をネパールで続けた。

2009年、イエズス会管区長の指示で帰国。ガラス越しに白銀のヒマラヤを望む教会堂の建設が、大木神父の心残りだった。その「聖アンナマリア教会」が、多くの支援者たちの手で、昨年春に除幕式を迎えることができた。それを見届けるかのような、いかにも大木さんらしい慌ただしい旅立ちだった。(俳句同人誌「櫂」2016年1・2月号掲載)



(ポカラから望むマチャプチャレ(左、6993m)とアンナプルナIII(7555m))

大木先生の納骨式ミサにて 《人生を直滑降のようにまっすぐ走りとおされた》

新井 隆(14期)

昨年亡くなられた大木先生の納骨式が、今年3/5に東京四ツ谷のイグナチオ教会地下聖堂で行われました。ミサの司式は、大木先生の六甲学院(中学)での教え子でもあり、高校3年のとき司祭叙階(1956年・昭和31年、14期生入学は昭和35年)を受けられた大木神父の六甲での初ミサに与り、次の日のミサでは侍者をして、そのあと朝食をご一緒し、学校に遅刻してしまったという深いご縁で繋がった外川神父。大木神父がネパールに行かれたあとでは、フィリピンマニラでお会いし、ネパールでの再会をお約束したがかなわず、それ以来お会いするたびに「あなたは約束を守りませんでした」といじめられたとのこと。



2007年頃の大木神父

また、食事を全く取ることができなくなられたときには、こんなやり取りがありました。点滴をしなないとだめですよ、神様からいただいた命を医学に手伝ってもらって全うしないと、とお話した時には、神父様は、点滴などは役に立ちませんよ。それは誰の意向ですか、と尋ねられましたので、管区長の意向ですと答えました。すると、ここには管区長がいませんね。誰が責任者ですか。責任者は館長の私です。あなたの意見はどうですか。私の意見は神父様が点滴を受けて、また、食事をとるようになられることです。分かりました。従いま

しょう。

しっかりとした従順で私の申し出を受け止められました。このやり取りが、神父様からの最後の大きなメッセージとして心に残っています、とミサの中で挨拶とご紹介がありました。

ミサのあと、シスター大木(大木神父のお姉さま)から、最後まで介護をされたイエズス会の神父様が書かれた闘病中のご様子を綴ったお手紙を紹介して頂きました。昔の大木先生をご存知の方には、若かりし頃のお姿を髣髴とさせるもので、外川神父の言葉をお借りすれば、あたかもスキーの直滑降のようにまっすぐに人生を走りとおされたお方でした。

イエズス会上石神井修道院で大木神父のお世話を担当された柴田神父様からのご報告は以下のようでした。

オーストラリアから帰ってから、入退院や検査のため、この修道院に入られている大木神父さんを病院にお連れすることが何度かありました。特に、大木神父さんの検査の付き添いは私が専属のようになりました。大木神父さんは、(この部分、詳しくは「大木神父 奮戦記」に書かれていますので省略)日本に引き上げてからは、佐賀の伊万里のトラピストでチャプレンをしていました。けれども2ヶ月で10キロもやせてしまい、心配したシスターに「一度しっかり検査したほうがいい」と言われ、上石神井に来られました。大木神父さんは、「自分がやせたのは、お医者さんがメタボに気をつけなさいと言われてダイエットしたからです。シスターは心配しすぎ。貧血もダイエットの断食のせいです。」とよく言っていました。修道院では、貧血の原因を調べて治療する方針だったので、私は検査入院の付き添いを何度かしましたが、原因がわかりません。

そこで、紹介状を書いてもらった血液内科のある病院に検査のため、また付き添いました。けれども待ち時間がとても長くて、朝8時から夕方4時までかかることもあって、途中抜けて映画を観にいった、回転寿司を食べたり、病院嫌いの大木神父さんが飽きないよういろいろしました。

そんなある検査の日、大木神父さんは食欲がなくて、何も食べていなかったのですが、「どうせまた、2〜3時間待たされるから、その間にチーズケーキでも食べましょう」といって出かけました。けれどもその日は、すぐに検査が始まりました。ベッドに横になった神父さんは介護士に、「貧血の原因はダイエットです」といつものように持論を展開して、最後まで、「検査は受けたくない、不本意だ」と伝えていました。

私は、「検査は受けたくないんだな。骨髄検査は痛いと聞いているし……。こんなときは、手巻き寿司のときに助けてもらったロザリオをしよう」と思い、神父さんに「控え室でロザリオしてますから頑張ってくださいね」と声をかけました。神父さんは「ありがとう」とにっこり笑ってくれました。ロザリオ2環祈

って待っていると検査が終わりました。疲れたようでしたが、大木神父さんは「看護師の方が、『やさしい息子さんが付き添ってくれて良かったですね』と言うから、『違います。一緒に住んでいるだけです』と答えた」と冗談交じりに話してくれました。その後、病院の喫茶店に行って、ココアとシフォンケーキを食べました。「ココアはおいしかったけどケーキは甘すぎた」と半分をわたしにくれました。骨髄検査を境に、大木神父さんの体力は一気に落ちて、食欲もなくなり寝たきりになってしまい、完全看護のロヨラ・ハウスの方に移りました。私は、「来週は一週間、山口に出張なので帰ってきたら借りてきた「永遠のゼロ(零戦の映画)」を一緒に見ましょうね」と声をかけました。

山口から戻って、骨髄検査の結果を聞きに行きました。大木神父さんは行けませんでした。お医者さんは、「データはそんなに悪くない。白血病の手前です。急に寝たきりで動けなくなったのは解せない」と言われました。

翌日、容態が気になってお部屋をのぞきました。目が開いていたのである本をかざしましたが、反応がありません。私は、「骨髄検査が良くなかったのですね。検査受けたくなかったのに……。気持ちを汲めなくてごめんなさい。また、ご自分でミサができますように」と祈って、席をはずしました。それから、30分くらいして、「大木神父さんが亡くなりました」と連絡がありました。

あまりに急でした。すぐにお部屋に行って「あのとき、骨髄検査を受けていなかったら結果は変わっていたはず。本当にごめんなさい」と心の中で謝りました。

生前大木神父さんは、「今日もたくさんの時間を使わせてしまって……。何から何までありがとう」とお礼の言葉は欠かしませんでした。でも私としては「付き添って時間も使ったけど……。本当の気持ちを汲めていなかった。申し訳なかった。ごめんなさい」という気持ちがどうしてもあります。

「ありがとう」と「ごめんなさい」という二つの言葉。この言葉がかわるがわるよみがえってきます。それともうひとつ、[助けて下さい]と言う言葉。宣教師として大先輩の大木神父さんに、「どうか、大木神父さん、助けて下さい」と苦しくなったときにはお祈りして、助けをお願いしたいと思っています。

最後に、大木神父の骨壺を全員で順番に胸に抱き、ご冥福をお祈りしながら先人の神父様と並んでお納めしました。



(野外ミサの様子)

阿部先生の思い出

山本洋三(16期)

トロッコに乗って遠くまで行けると思っていたのに、良平は「裏切られて」、ひとりで夕闇せまる線路づたいに家路を急いだ。ようやく村に着いた良平に、近所のおばさんたちが声をかけた。それなのに、良平はそれに答えもせず家に向かった。良平のその時の気持ちはどうだったんだろうね。

中1の国語で芥川龍之介の『トロッコ』の授業。阿部先生は、そう質問した。「はやく家に着きたいので答えている余裕がなかったんだと思います。」「聞こえなかったんじゃないでしょうか。」などなどの答えが次々に出た。先生は、腕を組んで、う〜ん、と言ってなかなか首を縦にふらない。

ぼくは、そのとき、なんだかはっきりと良平の気持ちが分かるような気がした。ちょうど似たような経験を小学生のころにしたからだ。もちろん「トロッコ」に乗ったわけではないが、で、勇気を出して手をあげた。「お、山本。」と指された。「怒っているんだと思います。」と答えた。みんなが、え〜？ って感じで、しばらく沈黙があった。先生は、そのとき、にっこり笑って、「うん、そうだな。」と言った。嬉しかった。それから10年後、そのぼくが国語の教師として教壇に立つようになるとはその時夢にも思っていなかったし、ましてさらに12年後、阿部先生の同僚として働くようになるなんて想像を遙かに越えることだった。

もともと生物学方面に進むことを夢見て中学時代を送り、高校に入ってもまだその気でいたのに、様々な事情で国語教師へと進路変更を余儀なくされたぼくは、国語を教えることに自信がなかった。大学も空前絶後の大学紛争の真っただ中に入ったので、ろくな勉強もせずに、いきなり教壇に立った。まるでずぶの素人の国語教師となったぼくが、その後42年間もその職を何とか続けることができたのは、あの時、阿部先生に「褒められた」ことが、大きな支えになっていたからだと思う。ぼくの国語教師としてのモデルは、阿部先生を初めてとする、豪華絢爛たる栄光の国語教師陣だった。だから教室で生徒たちに、ぼくは半分冗談で(ということは半分本気で)、「オレは高卒教師だ。」と言って憚らなかった。それほど、栄光の国語教師の恩恵は大きかったのだ。

阿部先生がどんな先生だったかを、ぼくが語るまでもなく、多くの卒業生が深い印象を心に刻んでいると思うので、細かく書く必要もないだろう。それでもあえていえば、「厳しくて暖かい先生」ということになるだろう。それも「厳しさ」のほうに心が強く残る。それは、在学中の印象だけではなく、「同僚」としての阿部先生においても同じだった。無口で、気むずかしいところもあった先生の、たとえば国語科の会議における一言は、まさに「千鈞の重み」をもっていた。それは頑固ということではなく、先生の言葉の一言一言が、その場の思

いつきではなく、深い学識に根ざしていたからだ。

あるとき、国語科研究室で、先生が「うらやましい」という漢字を書けるかと聞いてきたことがある。そう改まって聞かれると、不安になって、おそろおそろその漢字を紙に書いたところ、ほら、やっぱり間違えるんだよなあ、とニコリ。「羨」の下の部分を、「次」と書いたのだが、なんと左側の部分が「ニスイ」ではなく「サンズイ」だと言うのだ。慌てて辞書で調べてみると、そのとおり。その後、数人の国語教師に書かせてみたが正しく書けた者はひとりもいなかった。先生は、そんなこともさりげなく教えてくださったのだ。ぼくはそんな先生の深い学識にどんなに憧れたかしのれないが、結局、追いつくことなどできないままに退職してしまった。

阿部先生のことで、もうひとつ、忘れられない思い出がある。高3の授業のときのことだ。先生の担当は、国語の「演習」だった。「演習」と呼んではいなかったと思うが、要するに大学受験のための問題演習の授業だった。ある日、問題の解説をしているときに、ポツリと「こんな問題演習なんてしないで、西鶴とか近松なんかをじっくり読みたいんだけどなあ。」とおっしゃったのだ。そのときの沈んだ声の調子をぼくは今でも鮮明に覚えている。受験体制の中での無味乾燥な授業を否応なしにやらなきゃならないことへの嘆きとか不満とか、そうした気持ちがにじみ出していた。ぼくは、受験一色に染まっていく学校生活が嫌で嫌でたまらなかったもので、その言葉を聞いて、思わず心の中で叫んでいた。「先生！ そんなふうには言ってないで、近松でも西鶴でもやってください！」と。

もちろん、そんな思いは届かなかった。届いたとしても、そんな授業が実現するはずもなかった。けれども、先生がそうした「本音」を、生徒にもらしたこと、(もらさざるをえないほど辛かったこと)は、当時のぼくには救いだった。先生が決して受験一本槍の授業でいいと思ってはいないのだということが分かって、そして先生も辛いのだと分かって、ぼくもなんとか受験生の生活に耐えていけるような気がしたのだと思う。

先生と同僚として働く日々の中でも、先生は時々、心の中の鬱屈をポツリと話されることがあった。ぼくも先生とはお



(国語科研修旅行での一コマ)

そらくは違ったにしても、やはりぼくなり鬱屈を抱えて暮らしていたので、そうした眩きがいちいち心に響いた。もちろん、そうしたことについて先生とそれこそ「腹をわって」お話しすることなどかなわないことだった。ぼくにとって阿部先生は、いつまでも尊敬する恩師であり、その心の奥まで踏み込むことなど恐れ多いことだったし、先生もそんなことは決して許す人ではないように思えたからだ。

けれども、先生がお亡くなりになった今、もう少し、先生とじっくりと、人生について、教育について、文学について語り合いたかったなあと思つづく。それには、ほんの少しの勇気があればよかったのだ。国語科旅行で、酒を飲んで楽しそうに笑う先生の写真をみるたびにそう思うのだ。

OB便り

栄光学園田浦旧校舎

野崎 亮（1期）

栄光学園が1964年旧海軍工廠を改修した田浦校舎から大船へ移転して50余年になります。

田浦校舎を引き継いだ海上自衛隊は、旧海軍以来のほとんどの建物、施設を撤去し、新築しました。

御聖堂跡に大鉄塔、修道院跡には艦隊司令部が建ち、石垣岸壁は拡張補強され、校門付近の船溜まりは埋め立てられました。大講堂、体育館、高校校舎、理科校舎、事務館等、すべて建物は新しく造りかえられました。

そんな中、中学校舎だけが唯一まだ当時のまま残ってお

ります。1947年(昭和22年)4月15日、1期生72人が入学式を終え、A組、B組と2教室に入室。ここで伝統的栄光教育「栄光スピリット ”Men for Others”」が発祥しました。

いつか中学校舎が取り壊されてしまう前に、新築中の新校舎で学ぶ後輩達もぜひ田浦旧校舎を訪れて頂き、栄光スピリットを感じ、受け継いでもらえたらと思います。

「横須賀軍港めぐり」の海上ツアーを利用されると手軽に周れます。

栄光の軌跡 あの卒業生を訪ねて

広報部 米田哲郎(44期)

広報部では各界で活躍されている卒業生の方にインタビューを行い、会報と同窓会ホームページとで連載してまいります。

第1回：大河原毅氏(11期)

栄光11期の大河原毅氏を訪れました。誰もが知るあの「ケンタッキー・フライド・チキン」を育てた方です。本企画「栄光の軌跡 あの卒業生を訪ねて」の初回に相応しい、「栄光愛」に満ち溢れたインタビューとなりました。

栄光で心に残ったことはと質問すると、出てきた答えは、『落第』でした。正直意外でした。

ケンタッキー・フライド・チキンの元社長で、今は、上場企業ジェイシー・コムサのCEOという錚々たる経歴の方から、まさか『落第』という言葉が出てくるとは思いもしませんでした。



田浦旧校舎全景



大河原毅氏(11期)

生におり、地元でも名家で知られる大河原家でPTA会が行われていたとのことで、ご自宅にいつもフォス校長がジープに乗っていらしていたそうです。

ところが、中学時代真面目に授業を受けても、いつも成績は学年でビリで、学校から「落第」の判子を突き付けられてしまいました。しかし、その時、人生を変える一言が父親からありました。

「君は奥手だから」と。

兄は東大。自分は、栄光でも成績ビリ。父がなぜ、その言葉を使ったかは、いまだに判らないようですが、自分なりに非常に納得をした言葉だったそうです。

「そうか、兄はウサギ、自分はカメなんだ。」そう解釈をした大河原さんは、『今、自分は落ちこぼれていても、絶対に大学はケンブリッジ、ハーバード、オックスフォードのどれかに行こう!』と決めたそうです。

栄光でのエピソードを、大河原さんは話し始めました。「あのころ、放課後になるとスポーツをやっている連中は、掃除の時間なのにコート取りに向かっちゃうんだよね。自分ひとり残って何をしたかという、雑巾洗いをしていたんだよ。数枚の雑巾じゃない。教室に20枚ぐらいの汚い雑巾があってね、それを毎日、ピカピカになるまで1人で洗って、水道のところにかけていったんだ」

誰から言われたわけでもなく、ほんとうに「掃除＝趣味」だったそうで、黙々とやっていたとのこと。実は、この「掃除」が今の経営学でも活きているそうです。

小さいことでもコツコツと積み上げていくということ。「自分はあるとき気が付いたんだ。同じ学校の中で、同じことを先生が言っているのを聞いて、それでも自分は180人中ビリ。頭のいい人は本当にいるものだと。世の中でも、頭のいい人は上から目線で思ったり、話したりする人もいるかもしれない。でも、最初から僕は違ったんだよね。ビリだったから、上から目線なんて出来ない。

僕は、本当に一番下だったので、「いいところを見つける」「自分より魅力ある人と一緒にやっていきたい」って気持ちが自然と身についたんだと思う

出来る人は、瞬時に判断できるから、会社で言うと短期的に収益が上がるとか、自分のメリットが無いことを、すぐに判

断することをするかもしれない。でも、自分はいいものを目指して、一歩先は損かもしれないけど、長い目で見れば得るものをコツコツと積み上げることが好きなんだ。そうあの頃の掃除のようにね。ケンタッキー・フライド・チキンの社長。誰もが輝かしい経歴と思うかもしれないけど、実は1店舗目を作ったときは、苦労の連続だったんだよね。」

断することをするかもしれない。でも、自分はいいものを目指して、一歩先は損かもしれないけど、長い目で見れば得るものをコツコツと積み上げることが好きなんだ。そうあの頃の掃除のようにね。ケンタッキー・フライド・チキンの社長。誰もが輝かしい経歴と思うかもしれないけど、実は1店舗目を作ったときは、苦労の連続だったんだよね。」

1店舗目をオープンしても売れない。2店舗目も売れない。でも、大河原さんは信じていました。「売上は悪い。ただ、このフライド・チキンは本当においしい。絶対に成功する」と。

当時から優秀な人材には恵まれていたので、その人たちと日夜考え、中長期的な目線で店舗運営を効率化し、ようやく4店舗目から芽が出始めて、そこからあの掃除のようにコツコツと店舗拡大を繰り返していったのだそうです。

今では全国区のケンタッキー・フライド・チキンですが、これまで山あり谷ありの経営だったとのこと。

「顧客目線で『安全でおいしいフライド・チキン』の提供をしていても、株主総会では『経営目線でコストカットを考えると、輸入の鶏を使ったほうが良いのでは?』と厳しい指摘も多かった。短期的な目線でコストカットだけを見ると、そうだったのかもしれない。

ただ、自分は国産の新鮮な鶏でいかにおいしいフライド・チキンをお客様に食べていただくか。それしかないと考えていた。」

会社にお金があると、派手なことをやりたくなる。ただ、ケンタッキー・フライド・チキンは派手なイベントや広告プロモーションを取らずにやりませんでした。一歩ずつ、一歩ずつ。大幅な利益を上げるビジネス・モデルではなくても、顧客のことを考え、信じ、着実にやっていく

そんな大河原さんの経営方針が、店舗数を拡大していったのでしょ。

そんな大河原さんの経営方針が、店舗数を拡大していったのでしょ。

「経営をするのも、自分自身も含めて、一番大切にしているものは「人」である。

苦難を乗り越えたのも、自分の周りの人のおかげ。乗り越えた後に、喜びを分かち合ったのも、自分の周りの人。」

今では、ケンタッキー・フライド・チキンを退職されて、別の会社におられるが、今の会社でも傍で支えてくれている人は、実はケンタッキー・フライド・チキン時代の人たちだそうです。

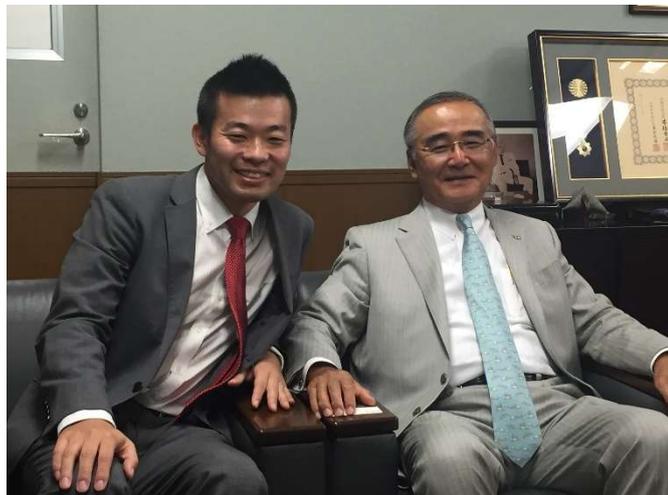


“あの”カーネル・サンダース氏と

「栄光の卒業生にも、「人」を大事にして、周りにいる方への感謝の気持ちを忘れずにいてほしい。人生の中で苦難は必ずあるものだし、その苦難を乗り越えるためには、必ず自分のことを信じて、また自分も信じられる「人」である。

栄光学園のアイデンティティは、時代や世代を越えても、脈々と受け継がれている」

栄光学園で学んだ、助け合える精神こそが、今の日本経済の不況を乗り越えるキッカケになるのではないのでしょうか。



大河原氏とインタビュアー米田(44期)

■大河原さんご経歴

1963年 栄光学園高等学校(11期)

1984～2001年 日本ケンタッキー・フライド・チキン株式会社 代表取締役社長

現 株式会社ジェーシー・コムサ CEO

第2回：鈴木久仁氏(17期)

今回は、17期の鈴木久仁氏。現在、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社の代表取締役社長を訪問させていただきました。

栄光学園での思い出をうかがうと、真っ先にでてきたのは『サッカー』でした。今でも毎年、サッカーの同期とは年に数回集まって語り合うそうです。中学ではセンターバック、高校ではボランチのポジションだったという鈴木社長。『サッカーを通して、本当に色んなことを学んだ』とのこと。

1.「後ろの声は神の声」

たとえば、キーパーには無条件で従えという意味。キーパーは自分が見えないことを客観的に見ている。目の前のことに捕らわれないで視野を広げることが大切。

2.「ストライカー」

ストライカーは点を取ることが仕事。海外には味方からボ

ールを奪ってでも点を取るような選手もいた。日本は「和を以て貴しとなす」ということなのか、どこか相手を気遣い、言いたいことがあっても言わないような人もいる。いざというときは、ストライカーが点を取ることに突き進むように自己主張をすべきだ。

サッカーの話を楽しそうに話す鈴木社長の話には、私も自然と引き込まれていきました。

そして、話は初代校長のフォス先生に移りました。

「フォス先生はね、『人の役に立て』ってよく言われていたんだ。中学と高校の時は、『何を言っちゃっているの?』という感じで分からなかった。先生に聞くと『人の役に立つ』とは、例えば『教師になる。医者になる。神父になる』そんなことだど。」

それでも、当時の鈴木社長には自分事にならず、その意味さえ分からなかったそうです。

また、ある時、栄光のOB会でも、こんなエピソードがあったようです。

「フォス先生に名刺を差し出した先輩がいたのですが、その時フォス先生が一言、『それで君はいったい何の役に立っているんだ』と。その先輩は、名刺をやや得意げに出されていたので、褒めてもらえるつもりだったのでしょね。それが突然、『君は何の役に立っているのか』ですからね。その先輩は、絶句してしばらく呆然としておりましたよ。でも、『人の役に立て』この言葉の意味が分かってきたのは、本当に最近でね。自分が大学生のころなんて、『教師』なんて選択肢は全くなかったし、興味すらなかった。『教える』ということに興味も無かったから。ただ、この歳になると、『人の役に立つ』と言う言葉がようやく分かってきた気がする。なるほど、自分ができる『人の役に立つ』こととは、若い世代に自分の思いや得てきた経験を伝えることなのだと。

今は、会社の若い人にもよく言うんだ。『自分ひとりで生きていくのは、むなしいよ。1人にでも役に立つということを意識しなさい。人に役に立つのは、自分の幸せのためなんだ。そういう意識が、女房はありがたい、友達ってありがたいという意識になるんだ。』とね。

会社というのは、『世の中のためにならないといけない』と思う。『世の中のためになること』を続けられないといけないし、続けるためには儲けないといけない。」

インタビューをさせていただいた私も小さいながら一経営者として、自分の中で非常に腹落ちをした瞬間でした。会社



鈴木久仁氏(17期)

の中で大切なことは、『人・後輩を育てる』、『役に立つことを続ける文化を作る』。その2つを、継続的に実践して会社を続けていく必要がある。

インタビューの最後には、栄光のOBの方へのメッセージを伺いました。

「栄光は、『人を育て続けてきた学校なんだな』と思っています。繰り返しになりますが、『人の役に立つ』ということ自体、20代、30代はがむしゃらに仕事をしていたので、意識すらしていなかったというのが正直なところ。ただ、40代、50代と年齢を重ねて、ふと落ち着いてみると、良い言葉だとしみじみ思います。20代、30代の方は、まだまだ『人の役に立つ』ということが実感できないかもしれませんが、40代、50代の方には、是非次の世代に自分の想いや経験を伝えて、『役に立って』いただきたいと思います。」



左より菱沼同窓会長、鈴木久仁氏、インタビュアー米田

今でも、フォス先生の『それで君は何の役に立っているんだ』という言葉が耳に響いているそうです。会社の経営者として、一人の人間として、『役に立てる』ことを追求していかうと私自身も誓いました。

■鈴木さんご経歴

栄光学園中・高の第17期生。1969年4月早稲田大学商学部入学。1973年3月同大学卒業後、4月大東京火災海上保険株式会社(現あいおいニッセイ同和損害保険株式会社)入社。総合企画部長などを経て2001年4月あいおい損害保険株式会社執行役員経営企画部長に。同社常務取締役、専務取締役などを経て2010年4月代表取締役社長。同年10月あいおいニッセイ同和損害保険株式会社代表取締役社長に就任。14年からMS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社 代表取締役会長
一般社団法人 日本損害保険協会の会長も勤める

第3回：木村浩一郎氏(30期)

今回は、4大監査法人の1つ、PwCあられた監査法人の代表を務められる30期の木村浩一郎さんにインタビューに伺いました。

監査法人という特殊企業体の代表、数々の有名企業を監査し、その経営者と対峙してきた木村さん。栄光の思い出から日本経済まで、様々なお話を伺うことが出来ました。

栄光学園の思い出は、部活に明け暮れていたとのこと。軟庭部に所属し、本当に部活中心の生活で、部の同期といつも一緒。そんな同期の『友情』は色々なところで感じていたそうです。

「休みの人がいたら、誰かがノートを代わりに書いてあげて、机の中に入れておく文化。栄光には、自然と『友達同士で助け合って生きている文化』が根付いていた。」

部活と同じぐらいに印象に残っている思い出は、中学3年生の時に読売新聞主催の英語弁論大会で全国大会に行ったことだそうです。当時、『高松宮杯』と言われた由緒ある弁論大会。

「今でも、覚えているよ。『Ladies & Gentleman, 』で始めるのではなく、『Friends, 』と威勢よく始めてね。テーマは、栄光に根付いていた、『友情』。本当にいい経験でした。」

『Men for others』という言葉は、学園内にいた時はそれほど先生方から言われていなかった。そのかわり、当時の校長含めて、色々な先生に常に言われていたことは『やるべき時に やるべきことを きちんとやる』。中高時代に繰り返し聞いてきたことは、本当に人生の中で大きな存在になっていますよね。

自分でも、びっくりするぐらい、今までの人生に活きている。いや、『埋め込まれている』と言っても良いほどだ。もちろん、『人のための人であれ』というアイデンティティも同様です。」

監査法人という仕事は、個人の名前で様々な企業に向き合っている。その会社の知識だけでなく、グローバルな視点から幅広い知見や洞察をしっかりと持つ必要がある。監査の品質を上げることで、付加価値を提供し、企業やステークホルダーに貢献する。監査法人というお仕事、普通の方は、接点がある職業ではないですね。

木村さんの仕事を通しての夢は、本当に大きく突き抜けていました。

「監査法人の役割は、ひとつの企業の監査をするにとどまらず、『世界から見た日本企業の価値向上』=『日本経済の活性化』ということなんだ。

だからこそ、社会に対して信頼を構築して、日本企業が世界に飛躍できる環境を作ることが夢。大きな仕事に取り組むからこそ、真剣に。」



木村浩一郎氏(30期)

インタビューをしていて、気が付いたことがありました。インタビューの答えが、短文明快。『伝えている』と言うより、『伝わってしまう』と表現した方が良いのでしょうか。

声のトーン・目線・言葉のチョイス・笑顔・話す時の間など。質問に対して卓越した表現の答えを用意していただいている。経営者のお仕事も多い中、短い時間で明快に伝えることを実践してきたからこそなせる、“匠の技”なのでしょう。

話を『アイデンティティ』に戻します。木村さんにとって、栄光学園のアイデンティティ『人のための人であれ』とはどういうことでしょうか。

「正直、『人のための人であれ』でないと、組織のトップとしてはもたない。『自分のためにする仕事』だと、失敗にも気づかないし、部下もついてこない。相手先の会社や相手のことを思いやり、考えるからこそ、自分も頑張れるし、日々の仕事が素直に出来ていることに繋がる。

特に、監査法人という職業においては、強くそう思っています。」

最後に栄光OBに対するメッセージを伺いました。

「Men for othersという刷り込み / 英語力(外国人とわけ隔てなく話せる) / 人との繋がり。この三つが栄光学園のOBの財産だと思う。

監査法人という仕事をしていて、もちろん金融庁などともやり取りをする。過去の金融庁長官にも、栄光OBがいっぱいいますし、『この人すごいな!』と思ったら栄光OBだったという経験も多々ありました。

お互い栄光学園OBと知るまではよそよそしいのに、栄光学園卒と分かったとたん、心を通じて話が出来た。『共通の土台』から生まれた安心感がそうさせるのでしょう。

本当に、たくさんの優秀な人が、色々な業界・業種で活躍されています。だからこそ、栄光のOB(特に若い方)は、どんどん積極的に自分を放り出して、色々な場に参加してみたい。きっと、そこで会った『すごい人』に栄光OBの方がいると思うから。」

*** 弁論大会の木村さんの締め言葉 ***
(友情に対する話の後)

Now, it's my turn to help and encourage others when they are in need.

「栄光若手OBの皆さん、助けが必要な時は先輩方が、絶対に助けてくれます。色々な先輩の方に、どんどん会いに行ってください。きっと、かけがえのない出会いが待っています。自分を解き放ち、もっともっと栄光の先輩方と交流を!!」

木村さん、長時間のインタビューありがとうございました。

■ 木村さんの略歴

1986年 公認会計士2次試験合格、青山監査法人入所

1993年 Price Waterhouseシカゴ事務所勤務

2000年 中央青山監査法人代表社員

2012年 PwCあらた監査法人代表執行役

経済同友会幹事、日本取締役協会幹事

第4回：五十嵐健夫氏(39期)

39期の東京大学教授五十嵐健夫氏を研究室に訪問しました。五十嵐さんの専門分野は、「コンピュータサイエンス」という領域。言葉を聞いただけでも拒否反応を示す人も多いと思うが、私もその1人。五十嵐さんは、私にも分かるように丁寧に解説してくれました。

コンピュータサイエンスは大きく、「理論」、「システム」、「応用」の3分野に分けることができ、五十嵐さんが研究を進めているのは「応用」という領域だそうです。グラフィックや人工知能などもこの領域に入るそうで、特にコンピュータのアプリケーションを使いやすくするためのユーザインタフェースの研究をされています。

最初に栄光の思い出について伺いました。

「まず、入学した時にキャンパスが広くて立派だったのが印象に残っている。今の生活が、ビルに囲まれた東京暮らし・東京勤めなので、緑がいっぱいで解放感のあるキャンパスが懐かしい。当時は認識していなかったが、最高の贅沢だと感じている。」

中高時代は、記念祭で装飾を担当したのが良い思い出のこと。

「講堂にあがる大階段や、校舎の1F・3Fの階段のガラス窓全面やレストランの内装などの絵柄をデザインし、製作し

た。後輩の中学生に指示して製作したが、今思えば、あれが人を使って仕事をしてもらった最初の経験だった。パンフレットのデザインもしたし、図書室の広報誌の絵も描いていた。」

ただ、実は栄光の学生生活は、プログラミングを独学で学びゲームを開発する毎日だったとのことで、「夕方家に帰ると、1人部屋にこもり、夜中までゲーム作り。本当に毎日毎日。高3の受験勉強期間に入るまで、親が心配するぐらい没頭していた。」

当時はまだPCソフトも充実していなかったので、絵を作るためのエディタ、ディスクを読み書きするドライブ、MAPを作るエディタなどのソフトを含めて、自分1人で作っていたそうです。ゲームは高校3年生になるまで作り続けていたが完成にはいたらず。当時市販されていたゲームと同じぐらいのクオリティになっていたが、世の中に出ることは無く、今もご自身のPCにひっそりと眠っているとのこと。

「教えていただいた先生方で印象に残っているのは、専門科目が本当に好きなんだなあということだ。数学の先生は数学の問題や解法の話をしているとき楽しそうだったし、生物の先生や物理の先生も楽しそうに話をしていたのが記憶にある。今の望月校長は韓国の話ばかりしていた気がする。

お世話になった先生は、ラビ(関根先生)。「英語」が好きという感じではなかったが(笑)、教育熱心だった記憶があります。自分が学問の道に進んだのも関根先生の影響があると思うし、感謝している。

東大に入学した後、栄光の同級生には優秀で、洗練された人がいかに多かったかをあらためて実感した。

今では、論文を読むのも書くのも、学会での発表も議論もすべて英語なので、栄光時代に、テープを繰り返し聞いて学ばせてくれた英語教育には感謝している。」

「コンピュータサイエンスの魅力は、画期的な技術を開発すれば、すぐに世界中で使われるようになる可能性があること。今や、世界中のほぼ全ての商品にコンピュータが関わっていると言っても過言ではない。そのようなコンピュータの能力を向上し、利便性を高めることは、そのまま我々の生活や文化の向上に役立つと考えて、研究開発に取り組んでいる。

いま取り組んでいる研究の目標は、欲しいものを自分自身で作れる環境にしていこう。現代社会は、大量生産と大量消費。世界中が同じものを見て、同じものを使っている。コンピュータを使って、素人でも自由に衣服や家具などをデザインできるようにすることで、より自由に豊かな社会を実現していきたいと考えている。」

過去の研究では、「2D」で描いた絵を簡単に「3D」にする

技術とか、平面の絵を簡単に動かしてアニメーション化する技術を開発していて、既に商品化され、広く使われているものもあるそうです。

キーワードで言うと、「コンシューマ・ジェネレーテッド」、「プロシューマ」、「メーカーズ・ムーブメント」といったもので、このような技術が日本経済や文化の活性化につながることを願っているとのこと。

「例えば、3Dプリンターが普及した時に、日本が技術の先導役になっていて欲しいし、将来には日本にもチャンスはまだたくさんあると考えている。

最近のニュースで、東京大学が国際大学ランキングでアジアNo.1の座から落ちたということを知った。日本は、技術の面でも他国にも決して負けてはいけない。技術者として、日本のために少しでも貢献していきたい。」

そんな話を伺って五十嵐さんの、強い心をもって研究開発に取り組んでいらっしゃる姿勢を感じました。



五十嵐健夫氏(39期)

最後に、栄光OBへのメッセージを伺いました。

「(自分が大学の教員をしているので、その立場からの意見になるが)最近の若者にとっては生きづらい社会になっているのではないかと危惧がある。物質的には豊かに便利になっているものの、長期的には、これ以上の繁栄があるというよりは、緩やかな下り坂なのではという、漠然とした不安がある。

また、過度につながった情報化社会の中で、自分の生き方に自信が持てなくなっているようにも見受けられる。直接的には、東大でも平均して学生の1割程度が、鬱や引きこもり、経済的理由などでドロップアウトしており、社会問題といえると思われる。

別件だが、就職活動が過大な負担になっているのも問題である。簡単な解決策はないし、私がどうこう言える立場ではないが、われわれの社会の未来を支える若者が厳しい状況にあることを理解し、皆さんがそれぞれの立場でできるこ

とを考えていただけると嬉しい。」

現在、理系職ではない私は、五十嵐さんのような研究者と話す機会など無い。今回のインタビューを通して、やはり日本を見えないところから支えているのは、五十嵐さんのような研究や技術開発を進めている方なのだと強く感じました。

■五十嵐さんの略歴

1991年 栄光学園高等学校卒業。

1995年 東京大学計数工学科卒業。

2000年 東京大学情報工学専攻博士課程修了。博士(工学)。

2002年 東京大学大学院情報理工学研究所講師就任、2005年同助教授、2011年教授。

2007～2013年 JST ERATO五十嵐デザインインタフェースプロジェクト総括。

IBM 科学賞、学術振興会賞、ACM SIGGRAPH Significant New Researcher Award等受賞。

ユーザインタフェース、特に、インタラクティブコンピュータグラフィクスに関する研究に取り組んでいる。

第5回： 桃井恒和氏(13期)

今回、ご訪問させていただいた先輩は、13期の読売巨人軍代表取締役会長の桃井恒和さん。

栄光入学は、昭和34年。1年上の先輩が栄光に入学した



桃井恒和氏(13期)

ことがきっかけとなり選んだ学校であったとのことだが、衝撃だったのは中学1年生の時に味わった「強歩会」だったそうだ。

「競歩会」とは、当時、三浦半島を中学生は30km、高校生は40kmを走る大会だったそうだが、もちろん中学1年生でそんな距離を走ったこともない桃井さんは、足に豆を作り

ながら、「休んだら終わりだ」という想いで久里浜から逗子まで3時間06分で完走したとのこと。

栄光の思い出に関して、そっと話し始めた。

「そんなに、これだ！！ということは実はないのだけれども。先生は、とてもユニークな方が多かった印象がある。生物の山本先生、数学の宇佐美先生。今でも、思い出しますね。

特に、勉強もトップを進んでいたわけでもなく、平均的だったかな。物理は特に苦手だね。高3で模擬テストっていうのがあったときに、今でも覚えているのだけれども、50点中5点を取ったんだよ。そしたら、当時「東京オリンピック」があったときだったからか物理の先生からは、『桃井君、テストはオリンピックと違って、参加することに意義があるわけではないんだ』って言われてね。すごく印象に残っているよ。」

インタビューは44期で大船世代。フォス先生も既にいらっしやらなかったし、神父さんもだいぶ減ってきた時期だった。桃井さんは、ずっと田浦で学生時代を送っていたのだが、その印象を聞いてみた。

「田浦はね、やっぱり海だよ。軍港があって、潜水艦が見えて、時々汽笛が鳴るんだ。海沿いにユーカリの木が生えていてね、匂いが今でも蘇るな。神父さんからは「公教要理」というキリスト教に関する講義を受けていてね。当時は、在学中に信者になる人が本当に多かった。入学したときは20名ぐらいの信者が、卒業するときには学年の半分ぐらいになっていたと思う。とにかく神父さんは、ちょっとしたことに細かくてね。生活態度、授業態度など常に注意されていた。そんな中、フォス先生は、まさに『日本の父』といった感じで、遠くから見ている感じだった。当時は、成績優秀者は学年が終わるときに、表彰をされていた。たしか、90点以上はAオナス、80点台はBオナスという感じで。ただ、勉強だけでなく「操行」と「礼儀」という評価もつけられていて、優良可で採点されていた。仮に勉強が出来ていても、授業態度などの行いが悪いと、AオナスやBオナスが取れないんだ。順位を明確にして、終業式の時に壇上で発表。そういう意味では、親も生徒も先生も本音で言い合える環境が自然にあった気がする。」

そんな学園生活を送っていた桃井さんは、栄光時代から既に「新聞社で記者になりたい」という夢をもっていたそうだ。当時、NHKで「事件記者」という人気ドラマの中に、人情味あふれる新聞記者がおり(昭和34年、初めてテレビがご自宅に来たときに)、ずっと楽しみに見ていたのがキッカケだったとのこと。

大学時代は、ちょうど大学紛争の真っただ中だったのだが、縁あって読売新聞社に入社した。

横浜支局のある桜木町で、6畳1間に新人記者3人が寝

泊まりする生活を経験。そこから約34年の新聞社生活のうち27年が社会部記者だった。記者時代を振り返って、こんなことを話していただきました。

「記者としては、戦後の節目の出来事に立ち合い、とても幸せな仕事をさせてもらった。ロッキード事件、国鉄の分割民営化、昭和天皇崩御……。田中元首相逮捕と天皇崩御の号外を書いた時のことは昨日のように思い出す。とくに天皇崩御の時は111日間も家に帰らずホテル住まいだったから。本当に貴重な経験だったと思う。」

「そこから、社会部長、編集局次長、総務局長などを経験させてもらったが、2004年の夏に急に辞令が舞い込んだ。当時明治大学の選手への金銭授受の問題で、読売巨人軍の社長、代表が解任となり、明日から、代わりに巨人軍の社長という職務についてくれという突然の辞令だった。ちょうど球界再編問題で選手会がストを打つ激動の時代。苦労はしましたね。記者はスクープ記事を抜かれたら自分の責任が多い。しかし、こと野球に関しては、自分ではどうしようもないことも多い。年間80試合以上スタジアムに通いながら、いかに巨人がファンの方に受け入れられ、勝ち続けられるかを考えぬいた。巨人だからこそ、メディアの風当たりも強くプレッシャーもそれはあった」

実は、巨人軍の社長に就任した当初は球団内で「中高時代に野球をやっていた」とは言わなかったそうだ。プロもいて、プロを目指していた人もいて、そんな中、ちょっと恥ずかしくて隠していたとのこと。ただ、とあるキッカケで、読売野球部の同期から会社に電話があって、社内に桃井さんが野球をやっていたことがバレてしまったそうです。

私が驚いたことは、まだ当時の読売の野球部メンバーと集まって野球をやっていたらしゃるとのこと。69歳ですよ！！皆さん、信じられますか？

野球部の同級生が50歳でお亡くなりになり、その十三回忌の年に、弔い野球をしようとしたのがキッカケだったそうです。今でも、野球部同期とは毎年3回は集まるとのこと。

「最近ではね、試合をやる前に練習日まであって。1回の試合だけでも大変なのに、練習もまたこれが大変なんだよ。同世代の巨人のOB選手を毎回1人は助っ人に呼んで試合をするのだけど。集まると、50年前に戻って、毎回くだらないことを言って笑っているよ。」

インタビュー当初、「読売の思い出かー。うーん。」と悩んでいた桃井さんでしたが、高校時代の野球部同期の話をしている時には、本当に素敵な笑顔で話してくれました。

最後に、恒例の「今の読売生へのメッセージ」を伺ってみました。



桃井恒和氏(13期)とインタビュアー米田(44期)

「自分の頃の栄光は、学費がすごく安くて、だから私のような裕福でない家の人間も栄光で学ぶ事が出来た。今は学費も高くなり受験準備にお金をかけられる家庭の子でないと、栄光に行かれなくなったのではと想像している。私が通勤時などに大船駅周辺で現役読売生を見て感じるのは、みんな一様に、恵まれた家庭の出身といった雰囲気の子供たちばかりだなということ。私たちの時代は、親の職業もさまざま、貧富の程度もさまざまだった。今でも外の世界に目を転ずれば、色々な階層の人間がいてそれで社会が成り立っているわけで、後輩たちには、自分たちの周りにいる読売生のような人間がすべてではない、自分たちとは全く違う、あるいは自分たちよりはるかに恵まれない環境で生きている人間がいっぱいいるんだ、ということをぜひとも意識できる人間になってほしい。」

読売巨人軍という日本の中で文化として根付いた企業を率いている桃井さん。

1試合で勝った負けたの一喜一憂ではなく、未来を見据えた発言に、夢中になってインタビューさせていただきました。

■桃井恒和氏 略歴

- 1970年 読売新聞社入社
- 2000年 東京本社社会部長
- 2002年 同編集局次長
- 2004年 同執行役員総務局長
- 2004年 読売巨人軍 代表取締役社長
- 2014年 読売巨人軍 代表取締役会長

同期の活動

四期生同期会報告(2015年11月5日)

加藤達雄(4期)

- ① 開催日時 2015年11月5日 13:00～16:00
- ② 開催場所 ホテル横浜ガーデン (昨年と同じ会場)
- ③ 参加人数 31名 (ほかドタキャン2名)
- ④ 司会 篠崎晃君(訪日中。当日ドタンバで依頼したのにさすが気配り満点の名司会)
- ⑤ 主な会次第

黙祷 (故水嶋藤雄君)

飯野君司祭叙階金祝報告(梅津君より飯野君からの謝辞伝達)

乾杯・会食(洋中ミックス8品+飲み放題)

大久保堯司君、志村耕一君(島田厚夫君の容態報告)

井尻浩右君(横須賀と藤沢について 比較論)

小倉修三君(関西在住同期生の動向)

森高志君(3回目の出席、リストのピアノ曲挑戦や自宅火災など近況報告)

鈴木宙明君(新校舎関連など同窓会活動報告、同期会欠席理由は大半が健康問題、四期生ファンド現状、同期会運営の今後について、など、事務方としての連絡)

⑥ 合田純一君指揮「千里の波濤」斉唱

⑦ 集合写真撮影

⑧ 散会

⑨ 散会后、幹事慰労二次会 (残留者 馬車道十番館にて)

幹事所感:

故森本鷹之助先生担任の中学1年D組が今年の幹事担当でした。幹事陣は清水節郎、小倉修三、加藤達雄で結成しましたが、なかなか準備に手を付けられないことに元締め

の鈴木宙明はやきもきしたらしいです。

当日の勘定方をお願いした杉浦保男君(銀行OB・A組)と突然の司会役篠崎君(在ニューヨーク・D組)に感謝します。

今年の連絡対象四期生は113名、出欠不明は18名、住所不明は2名 でした。

13期卒業50周年同期会(2015年10月19日)

安達一彦(13期)

2015年10月19日午後6時30分から熱海後楽園ホテルにて13期卒業50周年同期会が開催された。

前回の開催は、2012年10月12日(於 横浜のホテルプラム)であったが、幹事の徳本君から、今年は卒業50周年の年にあたるので、にぎにぎしくゆったりと時間をとって旧交を暖めようとの提案がなされ、幹事(徳本君、高須君、前山君、谷君、安達)5名の協議により熱海後楽園ホテルでの開催となった。

当日の出席者は52名、そのうち宿泊者38名、日帰り(宴会のみに出席)14名であった。

宴会場のホワイトボードに、あいにく欠席者の近況報告葉書が掲示され、また入学時から卒業時までのなつかしい数多くの写真(足立君が提供)がスライドにて流された。

濱口君から、13期生全員が卒業にあたっての心境を吐露した短文をとりまとめた冊子「一言申す」が提供され、回覧された。

まず、参会者全員の集合写真を撮影し、宴会は、定刻の午後6時30分、徳本君の開会挨拶、高須君の司会でスタートした。

最初に、物故者22名の紹介と参会者による1分間の黙祷がなされた。

次いで、前山君(栄光学園同窓会事務局長)より大船の新校舎建築の概要と旧校舎解体についての報告がなされた。

13期は、田浦5年、大船1年のみの期であるが、大船旧校舎解体は感慨深いものである。(安部君、下嶋君、中村君は、同期会の翌日大船旧校舎跡地を訪れたとのこと)

乾杯の発声は、遠路京都より馳せ参じてくれた水野君によりなされ、乾杯後、宴会出席者52名による自己紹介がなされた。



四期同期会(2015年11月5日)



の同期会が大木先生との最後となってしまった。中学時代の訓育担当として17期生に賜ったご指導に心から感謝申し上げ、ご冥福をお祈りしたい。

午後5時、荻野先生の乾杯の音頭で同期会は開会。坂本永造君の名司会にもかかわらず、ご来賓の一部を含め、多くのスピーカーの話が長目で、すべてのプログラムを消化し閉会できたのは、予定を1時間超過した午後8時過ぎであった。夜遅くまでお付き合い

いただいた先生方と迷惑をかけたホテルプラムの方々に感謝。

50年の歴史を感じさせるそれぞれの軽妙洒落な話で場は大いに盛り上がった。

自己紹介の後は、あいさつお順に配置された各自の座席から思い思いに場所を移動しての無礼講となり、車座となつたいくつかのグループができた。

午後8時20分頃まで宴会が続き、谷君がなか締め挨拶をした。

その後、戸谷君をリーダーとして「千里の波濤」と「Eiko High Forever」を斉唱し、散会となった。

散会後は、適宜各部屋に押しかけ旧交を暖めあった。

以上の次第で、50周年同期会は盛況裡に終了したが、翌日下嶋君より同期会を詠んだ句が寄せられた。

秋惜しむ 温泉(いでゆ)偶さかの 同期会
懐かしき 酒で紅顔の 美少年
顧みて 模索未完の 半世紀
皆様、次回開催まで元気に過ごしましょう。



欠席者からの葉書を紹介する菱沼同窓会長

開会に際して、栄光学園同窓会会長を務める菱沼徹臣君が、同窓会の動向などを報告。特に、都内で仕事をしている多くのOBが出席しやすいようにとの

配慮から、次回の栄光OBフォーラムを初めて東京で開催することにしたことなど、同窓会活性化の工夫が明かされた。また、欠席者の近況が報告され、出欠回答葉書が会場で回覧された。

出席会員全員による近況報告が行われた。17期生も65歳

に達したものが多くなり、リタイア組が増えたせいも、今までの同期会に比して、自分の仕事についての報告よりも、栄光時代の思い出話、暴露話が多く、会場は度々笑いの渦に包まれた。また、来賓の先生方に対して、「弁当を包むのに新聞紙を使わないよう指導を受けたが、その理由は?」、「栄光の教師になったきっかけは?」、「『瞑目』の際の手の置き方に

2015年度17期同期会報告(2015年9月26日)

塚原 治 (17期)

平成27年9月26日(土)、横浜駅西口のホテルプラムにおいて、17期同期会が開催された。当日は17期生33名が参加。土曜日にもかかわらず、母校からは萱場 基 理事長、望月伸一郎校長、恩師のうち大木章次郎先生、荻野文悟



荻野文悟先生による乾杯

先生、境野勝悟先生、迫 嘉邦先生にご臨席いただいた。誠に残念なことに、大木先生は約1か月後、10月29日帰天され、多くの同期生にとって、こ



境野勝悟先生



迫 嘉邦先生

楽しい時間はあっという間に過ぎてしまった。先生、次の同期会にはぜひ参加してください。



W.カーリー先生を囲む会(2016年1月28日)



W.カーリー先生と17期有志

19期同期会の物語(2016年3月5日)

勝見 明 (19期)

同期会の幹事にとって手間なのは会場の確保とその後のやりとりですが、19期の数少ない取り柄は「会場＝幹事」で一体化していることです。それは同期のヒラヤマが横浜で女性の間では絶大な人気を誇るオシャレなホテル「HOTEL PLUM」の経営者兼総支配人であることによります。

例えば、高校時代にバンドを組んでいた連中が46年ぶりに活動を再開させたとして、「できれば、みんなに聴かせたいよな。なら、同期会でも開いてもらおうか」とヒラヤマに相談する。ヒラヤマはHOTEL PLUMの宴会場のスケジュールを確認し、「じゃあ、来年

3月5日の土曜日が空いているから、この日にやるか」と即決。同期のアドレスが登録してあるメーリングリストで、「2016年3月5日に同期会を開きますので、よろしく！」と通知する。これで、同期会は成立です。

そんな案配で前回の同期会から1年半しかたっていないのに開催が決定したのが、今回の同期会でありました。その間、ヒラヤマはマンネリ幹事のカツミに、「また頼むね」とメールで連絡。「ガッテン承知の助」と引き受け、「どうせならバンド演奏だけでなく、同期の芸達者にもなんかやってもらう！一大パフォーマンス大会だ！」と調子に乗り、これはと思う連中をそそのかす。「皆さんのお力で盛り上げたい」と頼み込み、以下の演目が並ぶことになったのであります。

能の話 by クボタ(大手生保を退職後、能楽師に転身)

ピアノ&ビオラ演奏 by イモト(国立大学教授でピアノの名手)、イイノ(元栄光学園副校長・物理教師でビオラの名手)

③バンド演奏 by サステイン4(元国土交通省で鉄ちゃんのサエキ、脳外科医のシンスケ、がん研究者で在スペインのジュン、起業家のアキヤマ)

これは楽しみだと思っていたら、写真部だったナベシカ(歯科医)から、「栄光時代に撮った写真が実家で2000枚見つかったゾ！」との連絡が入る。「それ、おいしいじゃん！同期会で使おう」と思って、だれか編集してくれないかとメーリングリストで呼びかけたら、人の良さでは折り紙つきのヨッチャン(エンジニアリング会社勤務)が引き受けてくれた。

で、本番当日。プロとして活躍するクボタの「安宅」とかいふ勸進帳を題材にした謡は、いやー、しびれましたね。腹の底から声が響き渡ってすごかった。次いで、アマチュアコンクールで優勝し、コンサートも開く腕前のイモト、イイノの奏でるタンゴ調の調べも聴き惚れました。そして、サステイン4の登場。60年代のフォークソング&GS！懐かしかった！この日のために、半年以上練習したそうで、63歳のおっさんたちが高校生に戻っていましたね。



19期同期会(2016年3月5日)

写真のスライドショー。同期の顔が映るたびに、「あっ、○○」「お、××」と反応する単純さも高校時代のまんま。中国にいるシラサワもSkypeで飛び入り参加。最後は、やはりピアノの名手だったウエノハラが6年前に亡くなってから途絶えていたピアノ演奏による「Eiko High Forever」を今回はイモトとサステイン4の伴奏で復活させ、2時過半の宴は実に楽しく、閉会となったのであります。

65名も集まってきて、みんなありがとう。HOTE PLUMのスタッフの方々、面倒を見ていただき、感謝です。そして、御年89歳の稲田先生、いつも若々しい迫先生、今回も出席していただき、ありがとうございました。また来てくださいね。

というわけで、ビジネス分野でジャーナリストをしているカツミは、「その時々状況に応じて物語を紡ぐと、それが結果的に戦略として成立していく」という「物語的戦略」を提唱しているのですが、まさに物語的戦略の有効性を立証した同期会だったのであります。

28年ぶりの26期会！ 1月2日に開催 (2016年1月2日)

島崎裕之、武藤 豊(26期)

(写真) 武藤 豊、松本直樹、長谷川 宏

28年も同期会を開催していない期は他にあるだろうか。「このままではマズイ」と言いだしっぺとなった島崎裕之は同窓会常任委員で『活動サポート部長』。活動が停滞している期の活性化が主な役割でもある。今回の同期会開催に向けて情熱とパワーを発揮、下田 陽、吉田直人、呉東正彦、武藤 豊といったブレーンとともに企画した。

同窓生らは短い正月休みのスケジュール調整に苦心しながらも、開催日当日まで参加者は毎日のように増え、同窓生68名、恩師9名、総勢77名もの参加となった。「お前、誰だっけ」「○○だろ？ 久しぶり！」受付前から握手、ハグする連中も多く、開宴前から大騒ぎの様相。また50代後半という年齢の期で、出席される恩師が9名にもなることは極めて異例である。同窓生と同様、恩師の皆様も非常に喜んでおられたに違いない。



開会の挨拶は金子好光前校長(化学)

以降、写真を中心に同期会について報告したい。

新卒で赴任され、初めての授業が当時高2の26期。だから出来るならば、「来たくない」同窓会だったとか。本当にお若く頼りなさ気で、白衣がダ

ブダブしていたのを覚えている。



乾杯は迫 嘉邦先生(体育)

白髪以外は変わりなし！ 日体大出身で、山の家での余興「えっさっさ〜！」の力強さは未だに忘れ難い。柔道の時間にみんなからインサイドキックを受けて、後でくるぶしが腫れ上がっていたとか。今でも週1回、高1の選択授業で『スローフード』を教え、陸上部の指導もされている。



荻野文悟先生(英語)

中1Bの時の組主任、授業時に草野球をして遊んでくれた。その時の思い出を同窓会ニュースに綴ってしまった。通称、オギブン。スペインのアンダルシアが好きだった。「この中で独身の奴はいるかあ？ ダーメだよ、今からでもちゃんと結婚しなきゃ！」10年ほど前、愛妻に先立たれ、相槌を打ってくれる人間がいなくなった悲しさを、正直に述べて下さり、相変わらずの感を強くした。



稲田順一先生(物理)

89歳の最年長。杖についておられたが非常にお元気。高2の時の担任で、後に横浜高校にも非常勤講師でお勤めになられ、武藤 豊と同僚になる。



梅津尚志先生(社会)

高1〜高3の担任。後に清泉女子大で教鞭を執る。今日は、歴史家としての思いを熱く語っていた。金子省治先生亡きあと校史編纂、栄光カトリックの会等で今も学園に関わり、カトリック雪の下教会の教会委員長も務めておられる。



石川吉紀先生(英語)

落研出身であり、この日も萩野先生と自分が英語担当で申し訳なかったと笑わせた。ブラバンの顧問もしていたが、みなとみらいホールでの記念演奏会で「僕が顧問として一生懸命やっていたら、おそらくみんなの迷惑になっていた」と、正直に「何もなかった」ことを正当化して笑わせていたことも思い出す。



稲田千秋先生(国語)

中学生の頃、書道を習った。当時の印象は「渋い」以外の何者でもなかったが、今夜もやはり「渋い」であった。



林 恵津雄先生(数学)

卓球部の顧問であり、中1のとき幾何や統計を教わった。後に横浜高校へ非常勤講師として勤務され、稲田順一先生に続き、武藤の同僚となる。独身のお嬢様がいらっしゃり、この日の独身の面子に紹介していた。



村原正隆先生(化学)

非常勤講師として2年間、フォス校長に呼ばれて勤務したことを懐かしそうに話された。早稲田のドクター時に、我々は教わったようだ。その後、研究者として世界を駆け回り、現在東海大学名誉教授。「石油の次はナトリウムがエネルギーになる」と豪語するノーベル賞候補？



島崎裕之 幹事団団長、熱き思いの挨拶♪

息子が現役栄光生、父親のための聖書研究会幹事、同窓会常任委員も務め、母校には月2~4回足を運ぶ。羽織っているのは、息子の野球部の応援Tシャツ。他の学年との差異も、彼を今回の同期会に駆り立てた要因らしい。現役時はバドミントン部。(武藤 記)



総司会進行の下田 陽(右)と 受付・会計の吉田直人(左)

飲み食いもままならぬ仕事を引き受けていただき、ただ感謝！

今年はOBゼミの担当学年である26期。「オレに講師やらせろヨ」という声が相次いだのはとても嬉しい限りだ。二次会も22名もの参加があり、総会ではなかなかじっくり話せ



1枚に納めるのに苦労した集合写真。総勢77名！

なかった話題で盛り上がる。「お前やっぱり変わってないな」「お前は現役のころそんなにしゃべったっけ？」童心に戻り、また歳をとった現実にもなり、宴はますます盛り上がる。

締めの挨拶で島崎は感涙にむせぶ。今回の開催は26期の新たな船出である。長い間離れて

いたけど、また、僕らは出会った。そのことが何より愛おしい。見かけが変わっていても、そうでなくとも、やはり、僕らは同級生なんだな。

28期同期会報告

周佐喜和(28期)

28期同期会は、毎年お世話になっているホテルプラム横浜で、11月7日(土)の17時30分から開催された。28期は、東日本大震災のあった2011年も含めて、このところ毎年同期会を開催しており、同期会に少々飽きてしまった人も多いと思う。しかし、今年は、在学中にお世話になった金子好光前校長が3月に栄光を退職されたこともあり、金子先生が栄光着任後、初めて受け持った28期生としては、やはり今年度内に同期会を開きたいという思いもあり、今年も同期会を開催することになった。金子先生に加え、望月現校長も会の途中から飛び入り参加していただき、お二人の校長先生を囲む会となった。当日は、同じホテルの中で、ほぼ同じ時間帯で15期の同期会も開催されていて、会場を間違えないか幹事として心配していたが(何せ、在学中に歩く大会迷子事件もやってしまった期なので)、それも杞憂で、26名の参加者が無事に来てくれた。

当日は、金子先生の乾杯のご発声、自由歓談に引き続き、現在の栄光の新校舎建設状況について、高田暁先生と高橋英治君から説明があった。その際、同窓会当日は残念ながらご欠席となった飯野先生のお写真と新校舎設計を行う日本設計殿から貴重な資料を提供していただいた。ここでお礼を申し上げたい。自分たちが慣れ親しんだ校舎が今では跡形もなくなっていることを知ってしみりしかけたところで、同じ会場の15期同期会での挨拶を終えられた望月校長先生がお見えになり、栄光生の現況やイエズス会系の他校との学校法人統合の経緯などについてのお話をうかがっ

た。望月先生にはその後閉会までご参加いただいた上に、会費まで頂戴してしまった。会費を頂くわけにもいかず、後日この分を28期同期会からの70周年事業への寄付とさせて頂いていただいた。

また、毎日新聞(奇しくも今年度の幹事の一人、大木俊治君の勤務先!)でも紹介された、脳腫瘍と闘いながら作曲活動を行っている栄光在學生(66期)の加藤旭君のアルバムについて紹介があった。

その他に、卒業以降初めて参加された清水高弘君を始め、松浦正孝君、金田真己君からの近況報告、欠席者からの返信の内容紹介、高田先生から金子先生への「贈る言葉」、金子先生の栄光退職後の近況報告などがあり、次回同期会幹事の選出の後、恒例のEiko High Foreverを歌ってお開きとなった。

こうして予定していた2時間はあっという間に過ぎ、その後、希望者で二次会となったが、二次会から参加する人もいて、そちらも盛り上がった。

今回は(も?)、拙い幹事であったが、こうして無事に?同期会を開催できたのは、皆さま方のご協力のお陰である。

話しが前後するが、金子先生からは近況報告の中で、栄光退職後に公私ともに緊張から解放されたこともあってか、しばらく体調を崩された時期もあったという話しをお聞きした。28期生も仕事から引退する時期も近づいてきたはずで、そのときは気を付けるように、との忠告も承った。同時に、28期生が60歳の還暦を迎えるまでは、精進して同期会に参加したいとの強いお言葉も頂戴した。我々28期生の中には大病を経験した者もいて、健康上の心配が絶えない年齢になったが、先生のご期待に応えるべく、今後も同期会の開催を企画していきたいと思う。

29期同窓会 『飲み食べしゃべり続けた3時間』

前田真孝(29期)

中路喜之(29期)

昨年の『アルカラ先生を囲む会』から1年余りの時間が過ぎ、恒例の29期同窓会。いろいろな案もあったが、今回は「一足早い忘年会」となった。

「同期で集まるよ」と発信したものの、連絡が早すぎたのか、しばらくは参加希望者が一ケタ(>.<)。期日が迫って徐々に増え、最終的に17名が参加\(^o^)/。17名=29期の約1割が集まってくれたこ



新旧校長先生を交えて28期同期会(2015年11月7日)

とになる。海外組も2名参加してくれた

11月28日(土)の午後6時過ぎに横浜駅西口近くのお店で会は始まった。こうして元気で、もう卒業してから30年以上にもなる友人と酒を飲める幸せを感じつつ…それぞれのテーブルでは、栄光時代の話や近況報告などを肴に仲間との話に花が咲いた。おもしろかったのは、それぞれが「違う」栄光時代の思い出を持っているということ。授業中のことだったり、クラブのことだったり、下校の際の途中下車(!)だったり…。「そうだった!」「そういうこともあったっけ…」いずれにしろ6年間の栄光生活はわれわれにしっかり刻まれていることを再確認した。近況については、それぞれが第一線で活躍している人達ばかりだから、その話題の多さ・広さはハンパない! 政治から医学から何でもあり! 1年以上の時間が

あり、また昨年とは違うメンバーも出席してくれたので、3つに分かれたテーブル入れ代わり立ち代わりで、よく飲んでよく話した! 盛り上がりすぎて、最初の乾杯と最後の写真撮影はどうにかこなしたものの、気づけば終了時刻。店の御厚意により、オーダーストップなしの3時間飲み放題(+「八海山」1升サービス)だったのだが、3時間も1升の日本酒も、29期のこのメンバーでは、あっという間に完全燃焼だった(*^^)v。

メンバーは50歳を過ぎているわけだが、「ドクターストップでやむなく禁酒」というメンバーもおらず、まあ全員がよく飲んで、よく食べた! 全体のエネルギーは、栄光のころそのまま!

散会の後、幾つかのグループに分かれて二次会へ。もう随分飲んでいいるはずなのに、そして50歳を過ぎているのに…仲間のエネルギーがギッシユなところ、タフなところに感心。

会合やパーティーが多い時期で、しかも11月の終わりで「忘年会」と言っても良い時期になってしまった中で、多くの仲間～海外・地方から参加した仲間も! ～が参加してくれたことに感謝。いち早く出席表明してくれたのにfluでやむを得ず欠席した仲間も(残念、是非来年!)。一緒に楽しい時間を過ごせたことに感謝したい。

来年も、集まる機会を提供できるように頑張るのでフォローをお願いします。詳細については、決まり次第EACONなどで告知するようにします。全員への周知は難しいので、日ごろ連絡を取っている仲間に情報を流してもらえると助かります。多くの仲間が集まったら…と思っています。

宴会だけでなく、29期でやりたい企画、こういう開催方法・場所…など意見がありましたら、委員まで声をお寄せください。

元気で、また来年お会いしましょう!



29期同窓会(2015年11月28日)

32期 50の会

野口圭一郎(32期)

「みんなで50歳になる年は、盛大に集まろう～、俺がちゃんと仕切るからさあ～、50の会! 絶対やる!」と、学年一の人気者が声を張り上げるから、すっかりその日がくることを疑いもしなかった1年前。まさかだが、その人気者不在の「50の会」の開催となった。

藤原次彦、享年49歳。2015年2月22日、その強烈に個性的な生涯を終えた。あまりに若かった。13歳から18歳まで、誰からも好かれ、誰しものが認める32期の大スター。大学卒業後、広告業界に入り、44歳にして大手広告制作会社AOI Pro.の代表取締役社長に就任、業界の風雲児として、一企業の社長という域に留まらない活躍に更なる期待が寄せられていた矢先だった。

感染性心内膜炎。私たち32期の「50の会」は、人気者を奪ったこの聞き慣れない病を理解することから始まった。藤原の病にずっと寄り添っていた靄山信義・もみやまクリニック院長の説明に、参加者53人全員で耳を傾けた。「俺のこの病気のことはさあ～、詳しくちゃんとみんなに伝えてね。」と意識のある藤原が言い残した言葉通りに3ヶ月にわたる病状



故藤原次彦君

の進行と彼の体の中で起きたこと、そしてあらためて彼が戦った病のあまりの無情さを知る。そして、藤原から請われ銀行からAOI Pro.に転職、現在代表取締役副社長の譲原理から、藤原を偲ぶ映像が紹介された。藤原を慕うAOI Pro.の広告制作者たちが編集した力作である。広告業界で話題になった社長就任時の挨拶の映像、自宅でギターを手にゆずの「栄光の架け橋」を熱唱するプライベート映像などが丁寧に、心を込めて、編集されている。見終わったあと、あらためて襲ってくる喪失感。そして、それは、今後も私たちが集まるたびに、いつかは乗り越えて行かねばならない喪失感でもあることは誰しもが理解している。

「50の会」は盛大だった。現生活指導部長、壱岐太の乾杯の挨拶も大笑いを誘っていた。同級生が母校にいてくれる、それもありがたいことである。あちらこちらで、30年ぶりの再会を喜ぶ声があがる。喪失もあれば、再会もある。人生50年、まだまだ前進する勢いもあれば、すでに減速領域もある。小さな後悔もあれば、新たな希望もある。50歳にして集まる、それは懐かしさに浸ればいいという訳ではない。一人一人に、これからどう生きるか？もうひと花、何を咲かせる？と、問いかけてくる場でもあるようだ。

どこからともなく、会場の雑踏の中からあの声が聞こえてくる気がする、「みんな、聞いて、聞いて〜」。そして、多分、こう続く、「みんな、ありがとう。俺のことはもういいからさあ、次はみんなでもっともっと面白い会にして行こう！つまらないことしてたら、俺が寿命集めて生き返っちゃうよー。」と。あいつなら、どう考えるか？何を言うか？学年一の人気者は、今、私たちを見守る本当の星(スター)になっている。

62期成人式記念同窓会(2016年1月11日)

岡田 猛(62期)

2016年1月11日、62期の同窓会が開催されました。成人式に合わせて開催したため、137名(生徒131名、先生6名)という非常に大規模な会となりました。多くの参加者が成人式に出席してから来たため、スーツを着ていて、これがとても新鮮。やはり制服とスーツでは全然違いますね(当たり前だ)。62期が100人規模で一堂に会することなんて卒業以来初めてでしたので、あちこちでみんなが集まって話に花を咲かせていて、会場は大盛り上がり。プログラムの進行などで時計を気にしながらの参加でしたが、ついすっかりそんなことを忘れてしまいそうになるくらいの大盛況でした。そんな私は、目に入った同期に片っ端から「おー、〇〇じゃん！元気！？うえーーーい！！」という非常に雑な絡み方をしていくという、この上ないくらい面倒くさい奴になってました。

来ていただいた先生方には、冒頭の御挨拶とは別に近況などを話していただいたのですが、大西先生を独身ネタでいじるところに62期の一体感を感じたり、他の先生方の話し方とその内容に、いい意味で「卒業時から変わっていないな」ということを感じたりしました。また、飯野先生はプロジェクターで画像を映しながら、旧校舎の歴史や新校舎の様子、工事の進行具合などを紹介してくださいました。林先生にいじられた元木君を煽ったり、小谷先生が早々とお話を終えたことに対して笑いが起こったり、あるいはその後のビンゴ大会でガラガラを回していた私に対し、私と同じバレー部からビンゴが出るたびに「癒着だ！癒着だー！！」とソウルメイトがいじって盛り上げてくれたりする一方で、飯野先生の真面目な(と言ったら他の先生方に失礼ですが)お話にはじっと耳を澄ませ「おー」という歓声を上げることはあっても話



32期 50の会(2015年10月24日)



62期成人式記念同窓会(2016年1月11日)

の邪魔はしない。そんな同期たちを見て、「エネルギーに満ち溢れてやんちゃだが、やるときはやる」という62期生らしさ(栄光生らしさ?)を感じました。

また、集合写真を撮るときに、コントのようなことが。クラスごとに撮るため、最初にA組が並び、その前に並べられた椅子に先生方が座る……はずだったのですが、酔っ払って顔が真っ赤になった林先生はその前から同期の一人にお説教していて集合写真のアナウンスが聞こえず、A組の生徒と他の先生とカメラマンは既に準備ができていのにそちらに背を向け、お説教を続ける林先生。たまたま近くにいた私は、「あの、先生。写真撮影の準備が……もうみんな……」と恐る恐る声をかけると(酔っ払いへの対応は慣れていないんです……)、こちらを見て一瞬考えた様子を見せ……「今はこの子にいろいろと話してるんだから後で！」とまさかのガンスルー、そしてお説教継続！ 見かねて林先生を連れて行こうとした堀先生も同じようにあしらわれていました。林先生のハイテンションは会の終了まで続いていました(笑)。在学中、当然ですが酔っている先生を見たことはなかったので、とても新鮮でした。

そんなこんなでとても盛り上がり、楽しい会でした。会場をうっかり横浜ロイヤルパークホテルにしたため会費がちょいと高くなってしまったり、参加人数を読み誤ったために会費の一部を当日返金することになったりと、お世辞にも上手い運営だったとは言えなかったでしょうが、来てくれた同期のみんな、先生方に多大な感謝。ありがとうございました。

支部等の活動

物理部OB会総会報告

大野雅央(61期)

2015年3月28日、アロジジオ会館にて物理部OB会が開催されました。アロジジオ会館での開催は例年通りとなります。

今回は連絡が直前となってしまったものの、11期から63期まで幅広い年代にわたる26人の参加を得られました。今回は10期台の方々に普段より多くお集まり頂き、大先輩のお話を伺う貴重な機会となりました。これはOB会ならではの、と言えるでしょう。

大学生と働き盛りの社会人、あるいは定年後の方々など、普段あまりない組み合わせでの懇談ではあるものの、いわゆる「理系」の話を中心に共通の話題は尽きないようでした。

食事と懇談を楽しみ、次年度の総会議長を決めて今回はお開きとなりました。

決算については以下のように報告します。

収入	会費	52,000
	計	52,000
支出	会場費	0
	通信	20,696
	手数料	432

食事代	27,563
雑貨代	1,335
交通費	730
計	50,756
<hr/>	
収支	1,244

議案については、以下のように決定しました。

OB会会長は21期 古谷哲夫氏が留任。

OB会副会長は39期 斎藤逸郎氏が留任。

次年度の総会議長に62期 安河内健志朗氏を選任。

その他議題はありませんでした。

今回参加できなかったOBの方も、次回は是非ご参加ください。

[連絡]

＝同窓会事務局宛の「住所等の変更・更新連絡」ハガキの「同窓会員から同窓会事務局に、同期会やOB会開催などのための照会があった場合でも、情報を開示しないことを希望する項目」のうち「現住所」に×印を付けて同窓会事務局に返送された方へ＝

物理部OB会総会開催のご案内は、同窓会本部の名簿データベースを利用して宛名を出力して発送していますので、この方法によるご案内ができません。こうした方で、物理部OB会総会開催のご案内状送付を希望される方は、お手数ですが、物理部OB会の役員(会長、副会長、総会議長)にその旨ご連絡ください。

インディアンクラブ総会

伴 孝(22期)

去る平成27年10月17日(土)18:00より横浜駅西口「HOTEL PLUMM/COSMO Y.」(旧称 コスモホテル横浜)で体操部OB会「インディアンクラブ(注)」総会並びに懇親会が、隔年開催の会則に則り2年ぶりに開催されました。

総会では、小生の司会進行のもと(12年7回連続)、初めに平岡慎雄会長(17期、同じく12年7回連続)の挨拶があり、その冒頭で本会終身名誉会長で初代体操部部長である熊野忠敬先生の御欠席が報告され、皆一同落胆の表情が隠せませんでした。報告によると電話口に出られた先生の声には充分張りがあり、「最近はちょっと夜の外出は控えているんだよお・・・」との事でしたが、前後して届いた返信ハガキも同内容ながらも娘さんの代筆でしたし、御健康が心配され

ます。(ちなみに熊野先生は今年で御年88才になります)

続いて前回総会後の2年間で2回開催された役員会報告、そして会計報告が杉山正行会計担当幹事(31期)よりなされ、承認を受けました。また協議事項では、現行役員全員の留任が可決承認されましたが、実働困難な幹事も数名出てきて、実戦力になる若い幹事の補充が課題に残りました。

総会に引き続き行われた懇親会では、現体操部長である古賀慎二名誉会長に、近況報告を中心に御挨拶して頂きました。その中では「創立70周年事業」「新校舎建替え」「寄付金募集」そして「学校法人の合併」等の話題のほか、「現体操部は体操班とダブルダッチ班に分かれていて、ダブルダッチ班は世界大会に出場出来るくらい大活躍している」と場を盛り上げて頂きましたが・・・裏を返すと、元祖体操部は影が薄くなっているのでは・・・とふと寂しい気持ちにもなったのは小生だけでしょうか？

そのあとの乾杯では、恒例ながら本会初代会長である前川卓先輩(1期)に音頭を執って頂きました。その後、歓談の時間を若干取ってから、1期から順に「近況報告」を兼ねて御挨拶して頂いた処、やはり先輩方予想以上にお話し好きで・・・12期迄の僅か6名で時間が押してしまい以降は次回持ち越しと言う事になりました。(確か前回も同じ様な事態？でもこれで良いのかも・・・) また、「若者代表」として58期の大江、西尾両君にも挨拶して貰いましたが、中々しっかりかつ簡潔な発言で感心させられました。

締めとして、「Eiko High Forever」を大合唱し、更にホテルの人に記念写真を撮って頂き、お開きとなりました。



インディアンクラブ総会(2015年10月17日)

これも毎回御紹介しておりますが、この「ホテルプラム・コスモY」は、平山浩義氏(19期)が代表取締役総支配人をしており、前回は会の途中で御挨拶して頂きましたが、今回はお忙しかったようで御欠席でした。

今回の案内状況は、送付数253名、返信数87名(出席32名、欠席55名)でした。また、新入会員は62期3名、63期2名ですが、残念ながら5名全員欠席でした。

インディアンクラブ総会は西暦奇数年の10月第3土曜に

固定して開催することが会則の中に織り込まれており、次回開催は2017年10月21日(土)ですので、体操部OBは今からご予約して是非参加して下さい。毎回参加者が漸減しており、役員全員が責任を痛感しております。

注:「インディアンクラブ」とは新体操でも使われている「競技用棍棒」のことで、栄光体操部OB会の正式名称として登録しております。

野球部OB会発足！

加藤 淳(39期)

創部より約70年の時を越えて、2015年秋、栄光学園野球部のOB会が発足した。推定で野球部OBは約800人。栄光学園の中でも部員数の多い野球部だが、同窓会に支部として登録されている部活動のOB会としては9番目。「今までOB会がなかったことが驚き」(望月伸一郎校長)だが、11月3日に横浜市西区のホテルプラムで開かれた設立総会、設立祝賀パーティーには200人近くの野球部OBが集まり、母校野球部の物心両面からの支援に力を結集していくことを誓った。



パーティー全景

初代会長に花井勝三氏

設立総会では、約1年前からOB会設立に向けて水面下での準備を中心的に進めてきた12期の花井勝三氏を会長とする総勢10人の役員体制と、OB会会則などの各種規定、今後の事業計画などが承認された。

花井会長は、設立総会に続いて行われた祝賀パーティーで、OB会設立に至った経緯について、「毎年正月に、若いOBが現役員達と懇親試合を行っていることを知った。若いOB達は自腹で参加者全員の昼食など必要経費を負担しているだけでなく、現役部員の進路相談にも乗ったりしていた。OB会の原点のようなものがあると感銘を受けた。県

大会の試合会場で、父兄達がそろいのTシャツとメガホンで応援している姿を見る機会もあり、是非、OB会を設立しなければならないと思った」と述べた。

パーティーには、野球部を発足させた1期の創設メンバーから卒業したばかりの63期まで、大半の期から出席者があったほか、望月伸一郎校長、かねて野球部の顧問や部長、監督を務めた先生方のうち、稲田千秋先生、飯野習一先生(19期)、壺岐太先生(32期)、現高校監督の吉田明生先生、同窓会から菱沼徹臣会長(17期)、島崎裕之活動サポート部長(26期)も出席した。

歴史的初戦は清泉小学校野球部

パーティーでは、野球部約70年の歴史を支えるOBから、苦労話や思い出話が紹介された。

創部メンバーである徳永良輔氏(1期)からは、野球部発足秘話が披露された。

栄光学園中学校入学後、徳永氏ら1期生は、フォス校長やシュトルテ神父に野球部を作らせて欲しいと直訴したが、なかなか了解が得られず、「校長や天狗さんにどうやって説得した良いか、思案の日々だった」という。

当時は、帝国海軍の建物を手直ししただけの校舎・校庭で、グラウンドには石ころだらけ。「なんとなく認められたような形」というなし崩し的な船出で、「練習を始める前に20～30分は石拾いをしていた」という。

記念すべき初戦は中学2年時で、相手はなんと清泉小学校野球部。「なめられたもの」(徳永氏)で、試合は清泉小側から申し込まれたものだったが、勝利で面目は保った。当時の清泉小投手はその後、栄光学園に入学し、ともに野球部創設期の歴史を支えたという。

正式に野球部として承認されたのは、1期生が中学3年生になってから。当時はまだ道具の入手が困難で、校長が横須賀の米軍基地から使い古しのグローブやバットを調達してくれた。しかし、校長はドイツ人で野球がわからないこともあり、「もらって来てよかっただろう」と誇らしげに語るものの、「雲をつくような米国軍人のグローブは栄養失調寸前のような子供には使いきれず、バットも重くて振れず、ボールも硬球だった」と苦笑した。

高校3年時に初めて出場した県大会には敗れたが、その後は公式戦でも勝利を重ねるチームに成長。徳永氏は「いまや神奈川県下のみならず、全国的に名だたる『栄光学園野球部』に発展した。先生方の大きな功績であり、子供たちも勉強しながらよく頑張った。これからも文武両道で益々発展していただきたい」と、今後の活躍に期待を込めて乾杯の音頭をとった。

夢と消えた皮算用

現在、読売巨人軍の代表取締役会長を務める桃井恒和氏(13期)は、全国大会出場を見据えた“苦悩話”を紹介した。

1963年夏の神奈川県予選。ベスト8までコマを進めたチームは、保土ヶ谷球場での準々決勝試合直前、急遽、桃井氏ら選手による緊急ミーティングが開かれた。議題は、当時、藤井寺球場(大阪)で開催されていた全国大会出場時の旅費と宿泊費の調達方法だった。全国大会で勝ち進めば滞在費用もかさむ。OBを回るにしても、まだ当時は野球部OBは100人足らず。1期生の徳永氏でさえ、30歳そこそこで、まだそんなにお金はないだろう等々。

炎天下の下、車座の議論は1時間にも及んだが、ユニフォームに着替えて臨んだ準々決勝は、0対6で1安打完封負け。全国大会出場は夢と終わった。

桃井氏は「当時は身の程知らずを思い知らされたが、今や、栄光野球部は有数の強豪校になり、『栄光野球部の出身』と言って良い思いをさせてもらっている。プロ野球のドラフトにかかる選手は出なくとも、軟式野球の雄として、是非とも健闘してもらいたい」とエールを送った。

校長との直談判で守られた伝統

栄光学園野球部の歴史は、生徒や教員ばかりでなく、父兄からも支えられてきた。

同窓会会長の菱沼氏は、49期のご子息が野球部時代のエピソードを披露した。PTA会長を務めていた当時、野球部の「朝練」が槍玉にあがっていたという。朝練は、他校と比べて部活動の時間が大きく制限されている栄光学園野球部にとって、貴重な練習時間だ。

菱沼氏はPTA会長として、当時の関根悦雄校長と校長室で何度も膝詰めの直談判を重ね、「野球部の朝練がいかに自主性を重んじているか。野球部の伝統であり、どれほど人間形成に役立っているか」ということを切々と語り続けたと

いう。「朝練けしからん」論は次第に聞かれなくなり、伝統は守られた。

菱沼氏は「野球部は栄光で一番濃い、継承すべきスピリットを持っている。このDNAを継承し、野球部OB会が大いに発展してもらいたい」と述べた。

「栄光野球」の4本柱

野球部の顧問・部長、監督を受け持った先生方を代表し、38期から63期まで四半世紀にわたり、栄光学園野球部史上、最も長く監督を務めた壱岐太先生より、現在の「栄光野球」の特長について説明があった。

壱岐先生は、「栄光野球部の歴史の中で、今の野球部を形作っている土台となっているものが4つある」と述べ、

硬式野球とは異なる軟式野球の戦術を突き詰めて研究している。足や小技を絡めて相手にプレッシャーをかけながら少ないチャンスをモノにし、投手を中心とした守備で守り抜く野球を追求する。

高校3年まで野球をやって、夏の大会で勝負する。

相手のチームを徹底的に研究して試合をする前から勝つ。監督が選手を全て管理するのではなく、選手が今何をすべきかということを考えて練習をする

を、栄光野球の4本柱に掲げた。

関東大会で全国的にも強豪校の作新学院に完敗したことを通じ、相手チームの研究を本格的に行うようになったことや、データ収集・分析が定着し、今やチームに偵察班を設けて頭脳野球を展開していること、こうした取り組みも全て、生徒たちの発案に基づくものであることなどを紹介。「選手たちが自主的に考え、工夫をして形作ってきた所は、栄光野球部で昔も今も続いている点だ」と、今や全国レベルの強豪校に成長した野球部が、自主性を重んずる約70年の歴史と伝統の上に成り立っていることを強調した。



「考える野球」に適任の素人監督

最後に、63期が高3の春から高校監督に就任した吉田明生先生が抱負を語った。

吉田先生は、「自分は野球をやったことはない。素人だ。野球部顧問になって壱岐先生の采配ぶりを隣で見ていた耳年増」と自己紹介。「野球の蓄積がない分、生徒に考えさせ、監督の指示やサインがなくても創造的なプレーをフィールドで披露する、力以上のものを出してくれる、そんな試合ができるのではないかな。選手任せでラクをするというつもりはないが、生徒たちが本来持っている考える力、楽しむ力を引き出していきたい」と述べた。

◇ ◇

今回集まった野球部OBは、学んだ校舎も田浦時代、大船時代をまたぎ、校歌も異なる。パーティーの締めくくりには旧校歌「千里の波濤」、現校歌「緑なす相模野」、そして、栄光生のテーマ曲ともいえる「Eiko High Forever」の3曲を合唱し、幕を閉じた。

OB会は今後、原則として年に1回、役員と各期の代表である期委員(各期1～2人)が集まってOB会総会を開催。野球部支援策などについて協議し、現役選手との交流会などを随時行っていく予定だ。

栄光同窓カトリックの会主催第13回講演会報告

大島弘尚(14期)

同窓カトリックの会主催講演会報告

南篠俊二氏『シノドス(世界司教代表者会議)よりー世界と日本の教会のこれからー』

2015年度の同窓会総会で正式に支部登録された「栄光同窓カトリックの会」による第13回の講演会が2015年11月3日、カトリック雪ノ下教会信徒会館で行われた。

この会は、8年前より信徒卒業生の研鑽と親睦・母校への協力を目的として活動を始め、毎年、講演会・黙想会などを開催しています。現在の登録会員は74名です。



南篠俊二氏

今回の講師、13期南篠氏は公益財団法人世界平和研究所研究顧問・元読売新聞論説副委員長、海外勤務も経験なされ、カトリックの本山ローマ教皇庁の動向に詳しく、その変化を分かりやすく説明していただき、参加会員とその家族29名にとって大変有意義なお話でした。

「講演の要旨」

2013年3月に就任した現教皇フランシスコは初の南米出身、初のイエズス会士として欧米での信徒・聖職者の激減、不明瞭なバチカン銀行運営、中南米・アジア・アフリカで増大する信徒とイスラーム・他宗教との対話などの山積した難問に意欲的に取り組んでいるとのこと。2013年10月には「家庭」をテーマにした全世界司教代表者会議(シノドス)を2014、5年の二度にわたって開くことを発表。2014年10月の臨時シノドスで「福音宣教の視点から見た家庭の司牧的諸課題」を議論。その間、教皇は、使徒的勧告『福音の喜び』、『環境回勅』を発表し、教皇、信徒・家庭・生命を扱う新しい機関の創設、カトリック教育を促進するための基金創設を決めた。「妊娠中絶者にゆるしを与える教皇書簡」「婚姻無効裁判の効率化を促す教皇書簡」など、家庭に関する提言も行った。

このような実績の積み重ねの中で、教皇は2015年10月、「家庭」をめぐる諸問題に教会がどう対応すべきかを議論、決定する通常シノドスを開いたが、それに先立ち、前年の臨時シノドスの討議結果とそれにもとづく質問書を全世界の司教団に送り、4月までに回答することを求め、欧米、アジア、アフリカなど多くの国の司教団が回答を寄せ、それをもとに6月までに討議要綱がまとめられ、公表された。ところが、日本の司教団が討議結果と質問書を日本語に訳してホームページで公表したのは、通常シノドス開催直前になってからで、当然ながら全国の小教区や修道会などから通常シノドスへの意見、希望を聞いてまとめる作業も行わず、日本の司教団の消極的な対応が際立つことになった。

さて通常シノドスには、枢機卿、司教、修道会総長など議決権を持つ270名以外に、専門家・他宗派・他宗教代表14名、既婚者17名がシノドスの歴史で始めて議論に加わった。議論の進め方も、全体会議とともに、5言語ごとの約20人ごとの小グループ討議をへて、起草委員会で最終文書原案をまとめて、再度全体会議に諮り、教皇に提出するという、徹底したものだった。

提出された最終文書では、「秘跡による結婚の不解消については確認するが、キリストにおいて誠実と慈しみを尽くし、傷ついた家庭を喜んで受け入れる」とし、同棲の男女、同性愛についても触れ、「人の移動」「難民」「迫害されている家庭」「人身売買の犠牲」にも言及した。さらに、「配偶者をなくした男女への配慮」「家庭を教育や文化的な生活から遠ざける経済的困窮への無関心」「金やポルノにまみれ、まわりに関心を払わない風潮の世界的な広がり」へ警告している。結婚準備の強化、特に結婚に消極的傾向を強める若者への対応、夫婦間での性的行動と出産との結び付き、親としての責任意識を高める教育の重視を提言している。

通常シノドス閉会式でフランシスコ教皇は「家庭を脅か

す困難に十分な説得力ある解決が見つけられたとは言えないが、家庭と男女間の結婚への重要性への理解を促し、それを社会と人類の営みの基礎として再評価する事ができた」と述べ、現代社会で苦しむ人々を軽視し、教理に回執した保守派を暗に批判した。さらに「シノドス」とはギリシャ語で「共に歩む」の意味もあり、このシノドスの歩みは、第三千年紀に神が望まれる教会の歩みであり、互いに耳を傾け、学び合う大切さを強調、カトリック教会の健全な意味での脱中央集権化の必要も示された。教皇はこれをもとに、会議で結論が出なかったテーマも含めて、近く、回勅を発表すると期待されている。

私自身このような内容を聞くのは初めてであった。これらの提言に関し、日本の「カトリック新聞」の報道も不十分とのこと。南條氏はこれらの教皇の働きかけに対する日本司教団の無関心とも言える対応を指摘、その源は日本の信徒の高齢化、無関心による日本カトリック教会の劣化といわれ、信徒、同窓生への奮起を促された。

次回公開講演会のお知らせ

講師：森 一弘 司教 (5期)

演題：「いつくしみの特別聖年にあたって、神の慈しみを問う」

日時：4月29日(金) 14:00～17:00

(講演 14:00～16:00、懇親会 16:00～17:00)

場所：カトリック雪ノ下教会 信徒会館

会費：1,000円

同窓生とそのご家族の皆様のご参加をお待ちいたします。

栄光学園横須賀OB会総会

上原 真(31期)

平成27年11月14日土曜日午後5時より栄光学園横須賀OB会総会が米が浜の「和きち」にて開催されました。窪田信之氏(12期)の司会進行で、会の開催前に今年亡くなられた会員を悼んで参加者全員で黙祷をしました。その後、4月に会長になった上原真(31期)の挨拶に続き、櫻井達氏(2期)の乾杯で宴会が始まりました。



栄光学園横須賀OB会総会(2016年11月14日)

小一時間ほど飲食をしたあと、前会長である角尾二三男氏(15期)の挨拶に続き、参加者(文末に参加者を掲載)全員から近況の話がありました。中でも同窓会副会長である山田宏幸氏(30期)からは新校舎建設および寄付の状況説明、協力依頼がありました。予定の二時間を思いの外はやく過ぎ、新旧の校歌斉唱、集合写真撮影をし、総勢18名の会がお開きになりました。

参加者氏名(敬称略):2期櫻井達、名倉忠昭、山口悟、3期上原英雄、丸山晁臣、5期小川圭一、早川昇、8期田辺宏、9期永野進、10期岸洋一、11期佐久間博一、12期窪田信之、13期谷繁信、15期角尾二三男、26期呉東正彦、29期後藤誠、30期山田宏幸、31期上原真

2015年度バドミントン部OB会開催の報告

紙谷優明(59期)

2015年11月23日(土)に、毎年恒例の栄光学園バドミントン部OB会が元町中華街「萬珍楼」にて開催されました。今回は5期から63期の方々、総勢34名が集まりほぼ例年通りの規模となり、大変賑やかな会となりました。また、顧問を務めておられます、飯野習一先生にもご出席頂きました。

ご出席なされた一人一人より自己紹介や近況をお話し頂きながら会は進んで参りました。大学でバドミントン続けている者や、お仕事の傍でバドミントンを地域の子供達に教えていらっしゃる方、バドミントンをやりたいと思いつつも足が遠のいている方など、それぞれ異なる環境にいらっしゃるメンバーと現役時代を回顧しつつ楽しい歓談のひと時を味わいました。また、皆様の多彩なご経験をお聞きし、このよう



2015年度バドミントン部OB会(2015年11月23日)

に多様な人々が集まるのは栄光学園バドミントンOB会なら
ではであるとも実感しました。

栄光学園同窓会の委員を務めていらっしゃる島崎さん
からは、バドミントン部に所属し、小児癌という難病を患いな
がら作曲活動をしている加藤旭くんのご紹介もありました。
加藤くんの作曲した楽曲を集めたCDアルバム「光のこうし
ん」を島崎さんを通じて購入される方々も多くいらっしゃいま
した。

最後は、飯野先生より、現役学生の様子をお話し頂きま
した。懸命に文武両道に励んでいるその姿が浮かび、自分
達の満足のいく部活動・学生生活を送ってほしいという思い
がより一層強まりました。

会の翌日は中学生・高校生ともに試合ということで、現
役学生の健闘を祈りつつ、会を締めました。

最後になりますが、これまで栄光学園OB会を支えて下
さいました、4期の島田厚夫 元OB会長が去る11月25日に
ご逝去されました。この場をお借りしまして、御冥福をお祈り
致します。

今後も栄光バドミントン部の益々の発展を願うとともに、
これをご報告とさせていただきます。

またもBB!、3回連続の江田氏 バドミントン部OBコンペ報告 & 次回案内

島崎裕之(26期)

2015年11月29日(日)、13回目となったバドミントン部

OBコンペが、前回と同じ
『季美の森ゴルフ倶楽部』に
て開催された。

参加者(期順、敬称略)は、
江田滋人(17)、服部秀昭
(会長・18)、野口達司(24)、
下田精治(25)、砂川佳昭
(25)、島崎裕之(26)、中嶋
康介(29)の7名(2組)。ハワ
イ在勤の中嶋氏は昨年秋の
コンペと同様出張による帰
国のタイミングとなり、参加
することができた。7:30とい
う早いスタートであったが気
温も徐々に上がり、非常に
快適なコンペとなった。ただ
ハワイ帰りの中嶋氏にとって
は厳しいスタートとなり、調子

が上がってきた頃には『もう終わりか』となってしまったが。

肝心の成績だが、見せられた表最初に私が見て、思わず
「うっ!」と絶句してしまった。前回「またかよ〜」とぼやいて
おられた江田先輩が3連続BB。ここまで来たらもう笑うしか
ない。ただ賞に縁のない私こと万年幹事の島崎にとっては、
唯一狙えるBBを3回もお預けにされたのだ。だが今回は島
崎がBMなので言い訳は天にツバするようなものか。

BBの話のみ先行してしまっただが、優勝砂川氏、準優勝下
田氏と25期組が独占した。なお江田氏はグロスでは2ケタ
のスコアだったと念を押しておく。今回は気の効いた若手
(とはいっても50歳)の二人が都合により欠席となってしま
ったため、写真を撮り忘れてしまった。何卒ご容赦いただき
たい。

パーティー開始前に、前週のOB会後に帰天された、4期
島田厚夫元会長の冥福を祈り、黙とうを捧げた。なおこの機
会に、脳腫瘍と闘う少年音楽家、66期現役バドミントン部員
である加藤旭君のCD『光のこうしん』を、前週のOB会に出
席できなかった参加者の皆様にご購入いただいた。

次回は、2016年5月29日(日)、久々に房総を離れ、富
士裾野の『ファイブハンドレッドクラブ』で開催する。9:06~
4組確保した。ここは電車で行って、帰りはグリーン車で一
杯やりながら等と考えているので、ゴルフはさほど好きでな
くても、酒が好きなOB各位にも是非ご参加いただきたい。

演劇部43期同窓会

河野 修人(43期)

「え？栄光に演劇部ってあったっけ？」

これは、私の勤め先の栄光OB会で、某先輩から発せられた一言である。そして、これに同調する他の先輩、後輩。

たしかに、この集まりのメンバーは私の前後ともに10期以上空いている。おそらく、この空白の期間に栄光演劇部は創部され、最盛期を迎え、そして残念ながら部員不足により廃部となってしまったということなのだろう。

私は必死になって「部長の山本洋三先生の厳しい指導を受けながら、創立記念祭では講堂を埋め尽くさんばかりの観客を前に芝居をしていた」「最盛期には20名以上もの部員を誇っていた」「演劇の研究を目的に、S泉女学院やK倉女学院の芝居にも足を運んでいた」など、栄光演劇部が確かに存在した証を説明(一部誇張を含む。)するも、「演劇って男だけでできるのか?」「単に女子校の文化祭に行きたかっただけでしょ?」「君の通っていた栄光は違う栄光なんじゃないの(笑)?」とまで怪しまれる始末。

かくして私は、「このままでは、推定50名、いや100名を数える栄光演劇部関係者に対しても、私と同じ疑念の目が向けられてしまう、実害はほぼ想定されないが、元キャプテンとして何とか演劇部が存在した証を残さねば」という緩やかな義務感を抱えつつの日々を過ごすこととなった。

そんな折、昨年秋のある日、私の緩やかな義務感(正確には、義務感を緩やかに感じていただけで、何もしてこなかったこと)を見透かすかのように、演劇部の某同期から「洋三先生を囲んで同期会をそろそろやろうぜ」という旨の提案(催促)があり、私は焦った。マズい、私がボヤボヤしている間にも、推定100名、いや200名を数える栄光演劇部関係者に対し、私と同じ疑念の目が向けられ続けているかもしれ



演劇部43期同窓会(2016年1月8日)

ない、このままでは栄光演劇部関係者に顔向けできない、と。



部長 山本洋三先生

幸い、洋三先生のご様子は、ご本人の手によりウェブ上でフルオープンになっており、体調の方もすっかりご快復されたようだ。ちゃんとした演劇部同期の名簿もメンテナンスしてこなかったが、この時代、SNSをたどれば何と

かなるだろう、不惑を迎える前に、声を掛けられるだけ掛けてみよう。ということで、皆の多大な協力を得て、栄光演劇部43期生9名が山本洋三先生を囲む会の実現に至った次第である。先生曰く、栄光演劇部としては、初めての同窓会開催とのことだ。

平成28年1月8日、実に20年ぶりの再会となるメンバーもいる中ではあったが、演劇部の思い出の濃厚さゆえだろうか、あるいは、意外と皆、見た目が変わっていなかったからだろうか、久しぶりという感じが全然しないなあ、というのが互いに抱いた印象だったと思う。

当時、我々の上演した「雪をわたって(北村想)」「エリゼのために(同)」「戦場のピクニック(アラバール)」「颱風よこんにちは(田中雅司・演劇部43期)」のそれぞれについて、次々に語られる思い出話の鮮明さもまた、流れた年月の長さを感じさせなかった。皆で当時の写真を眺めていると、20年経った今も、ディテールも含めて(むしろ、ディテールほど)当時の空気感がよみがえってくるのだが、これは、月並みではあるが、卒業したのがついこの間のようでありながら、事実としては卒業してからの人生の方が長いという、とても不思議な感覚を伴うものだった。

部長の洋三先生もお変わりなく、もともとカメラ、水彩画、エッセイ執筆、芸術鑑賞ほか多くの趣味をお持ちであったところ、近頃は書道にも精力的に取り組まれているとのこと、「時間がいくらあっても足りない」と、ちょっと嬉しそうにはあったが、お嘆きであった。

また、先生はこれまでの演劇部上演記録を整理されているらしく、我々の上演した演目を丁寧に手帳に書き込まれていた(おそらく先生も、栄光演劇部の実在を疑われたことがあるに違いない)。我々の入



首都高大会(2016年3月3日)

つ、一番年下の私から順にトークタイムとなりましたが、当会は年1回ペースの開催なので、初参加の方以外は自己紹介はほどほどに、近況報告(栄光同窓会情報や結婚報告など)がメインとなりました。

その後の自由歓談においては、栄光時代の思い出を語りあいました。当会の栄光OBは19期、20期(2名)、22期、25期、26期、30期、43期、56期と20期周辺が多い構成となっており、私が知らない時代の栄光のお話をたくさん聞くことができます。そして、私が毎回驚くのが、先輩方の思い出話の新鮮さです。何十年も前のことなのに、さも昨日のことのように鮮明に記憶されているのです(卒業してまだ8年の私は全然・・・笑)。また、ご子息が現役栄光生の方からホットな栄光情報を聞くことができるのも、この会の大きな楽しみのひとつです。

これまで同様に会は非常に盛り上がり、紹興酒の空き瓶も自然と増えていきました。あっという間に予定の2時間が過ぎ、20期高村氏から締めのご挨拶をいただき、最後に集合写真を撮って解散となりました。

同じ学校で中高時代を過ごし、大学でバラバラになりながらも、同じ会社に再度集まるという貴重な縁やそこから生まれる絆を今後も大切にしていきたいので、来年以降も継続的に開催したいと思っています。

母校創立70周年記念「オール栄光ゴルフコンペ」 9月4日(日)開催決定

島崎裕之(26期)
渋谷直人(27期)

母校創立70周年を記念いたしまして、幅広い期の方々が楽しく参加できるスポーツイベントとして「オール栄光ゴルフコンペ」を開催いたします。

これまで栄光OBゴルフコンペは、諸先輩有志の皆さまのご尽力により長年に亘り毎年開催されて参りました。

しかし、平日の名門ゴルフクラブでの開催であったため現役世代の参加が少なく、最若手が50歳代半ばという現状で、参加人数もここ数年減傾向にありました。

そこで、これまでの伝統を守りつつも母校創立70周年のこの機会に飛躍すべく、「より若い期も交え、なるべく幅広い年代の多くの方が気軽に参加できるコンペを」の旗印のもと、同窓生有志により今回の計画を進め、同窓会協賛での開催の運びとなりました。

是非とも多くの同窓生・関係者の皆さんの参加をお待ちしております。なお正式な競技形式は、後日改めてご案内させていただきます。

同窓会関連のサイト等でも案内をさせていただきます。

「栄光学園同窓会」:<http://www.eikoalumni.org/>

「EACON」:<https://eacon.alumnet.jp/>

【開催概要】

○開催日時:2016年9月4日(日曜)

○開催会場:よみうりゴルフ倶楽部

〒206-081 稲城市矢野口3376-1 TEL.044-966-1141

<http://www.yomiurigolf.com/login/index>

小田急線 新百合ヶ丘駅より

タクシー15分

京王相模原線 京王よみうりランド駅より

タクシー5分

○参加募集人数:36組、144名

○費用:プレイフィー(キャディ付、乗用カート) 約2万1千円(税込)

その他昼食費、パーティ代等を予定しております

○競技形式:

1) 個人戦 新ペリアによるスコア順位戦

2) 団体戦 グロスによる各期対抗戦

(団体戦は、各期4名以上参加が条件、4名のグロス合計、5名以上参加の場合は上位4名のみ集計)

他に部対抗等も検討予定

○懇親パーティ:ゴルフ場にて開催(表彰式、学園の近況報告等予定しております)

【募集および問合わせ先】

○参加エントリー方法:【先着順】

以下のいずれかの方法でエントリーください

1) 事務局へメールでエントリー

下記宛にメールでご連絡ください

追って必要事項エントリー要領をご連絡します

alleikogolf@gmail.com

2) 専用URLよりエントリー

下記専用URLにアクセスいただき、専用フォームに必要事項を入力ください

<https://goo.gl/VzUZg8>

3) スマホ等からQRコードでエントリー

スマホ等で添付のQRコードを読み込み、専用フォームに必要事項を入力ください。



○問合せ先:

栄光学園同窓会「オール栄光ゴルフコンペ」事務局:

alleikogolf@gmail.com

実行委員:

7期高須賀洋三、11期大河原毅、

12期花井勝三、13期桃井恒和、17期菱沼徹臣

事務局メンバー:

20期高桑毅、20期小島宏、24期福本学、

24期下澤一郎、26期島崎裕之、27期岩倉宏司、

27期渋谷直人、30期山田宏幸

歴史文学散歩

栄光学園同窓会歴史文学散歩

2015年11月21日開催「久良岐公園から三殿台遺跡を歩く」

蒲原正治(6期)

友人に誘われて久しぶりに参加。大島先生をはじめとする17名が京急上大岡駅改札口を出た東口に集まった。点呼・自己紹介と丁寧に作られた資料が配布された。駅を東に出てすぐに急坂を登る。

年齢に合わせてゆっくり登るが、少し汗ばんだ所で道路右側がひらけ、天候にも恵まれて遠く沢の山々が見える。眼下に街並みが見えるので、意外に登ったことがわかる。

さらに進むと、左手に少し下って「高野山大岡山真光寺」。資料にある大屋根端の鴟尾(しび)・・・難しい字ですね!・・・天守閣の鯨の様な物などを確認し、元の道を先に進む。坂を下って登って「久良岐(くらき)公園」。入り口の階段を下った所で、以前金子先生に導かれて来たことを懐かしく想う。公園は造成されたものだそうだが、池などあり、秋色を楽しみながらゆっくりと下り、公園を抜ける。右折してすぐ

に「久良岐能舞台」。



久良岐公園



謡

以前来た時は、上がって立派な板の間を拝見しただけだったが、今回は能楽堂の由来と“能の真髓の解説“・謡・笛と盛り沢山、30分かかかる。もともと私は、静かな庭で聴いていた。少し色づきだした紅葉・山の斜面の木々の緑・小さな流れ。満喫した後、岡村公園へ、70段ぐらいの階段にチャレンジした方も。「岡村公園」は、どちらかと言えば、運動公園。場所を探して昼食。

ただ、天満宮は小さいけど面白い物がある。

それから、しばらく歩いて学校の角を曲がって、お目当ての「三殿台遺跡」。ここも高台で見晴らしが良い。説明を受ける。「三殿」は、縄文・弥生・古墳の三代の遺跡がある所。

発掘が行われたので当時の感じはないが、真ん中に再現した大きなショウケースのような建物があり、発掘当時の様子が再現されている。昔の「家」再現されているが、素人目には同じような感じ。資料館があり、土器の違いなどがわかる。

3つの丘を越えてきたが、資料によれば“縄文の海進”では、上大岡の駅の近くにまで海が迫っていたようだ。“どんな生活をしていたのかな?”と思う。入り口前の道路の向こう側に“貝塚”があるので、海岸が近かったことが実感できた。

最後は、「横浜英和女学院」のそばをもう一つ丘を越えて、道脇の階段の上の「勝国寺」もちょっと見て、横浜市営地下鉄駅「蒔田」に着く。解散。若い人に興味をもって、参加してもらいたい。



竪穴式住居前で集合写真

2016年度歴史文学散歩のご案内

大島弘尚(14期)

一昨年まで故金子省治先生のご指導のもと12年間続いた同窓会の歴史文学散歩は、参加した方々の期待と前同窓会事務局長の三春勝正様のご尽力により続けています。今年度も、昨年同様年4回平日を中心に行いますが、そのうち1回は、より多くの卒業生の参加を期待して、週末を計画しました。ご家族の方や、午前中だけの部分参加の方もいらっしゃると思いますので、初めての方も是非ご参加ください。

参加予定の方は、事前に同窓会事務局にご連絡いただくと幸いです。同窓会事務局は原則月・水・金曜日の午前10時より午後4時まで開いております。(同窓会事務局 TEL/FAX 0467-44-8875)

2016年度 歴史文学散歩予定コース

三春勝正(6期)

①芭蕉と歩く大塚・目白台(芸術浪漫コース)

実施日:5月26日(木曜日)

集合:地下鉄有楽町線「護国寺」1番出口 10時

解散:茗荷谷駅 15時ごろ

距離:5~6Km

昼食:弁当又は外食 その他:鳩山会館入場料500円

護国寺駅~護国寺~日本女子大・成瀬記念講堂
~新江戸川公園(旧細川邸)~関口芭蕉庵~永
青文庫~旧細川侯爵邸~講談社野間記念館~
東京カテドラル聖マリア大聖堂~ホテル椿山荘東
京~佐藤春夫旧居跡~鳩山会館~林泉寺(しば
られ地蔵)~茗荷谷駅(丸の内線)

このコースは2013年5月に、今は亡き金子先生がご案内されたコースと一部重なりますが、今回は先生が回られなかったところも含めてコースを変えて歩きます。朝ドラの「朝が来た」で取り上げられた成瀬記念講堂なども回ります。5月はバラの時期、今回もバラのきれいな鳩山会館を入れました。金子先生もきっと5月のバラ庭園を私たちに見せたかったのではないかと思います。先生の歴史散歩のご案内も確かこのコースが最後だったとおもうと感慨深いものがあります。

②北原白秋ゆかりの地を巡る

実施日:9月27日(火曜日)

集合:京急「三崎口駅」 10時

解散:三崎港 15時30分ごろ

距離:6~7Km

昼食:弁当又は外食

三崎口駅ーバスー白秋碑前~白秋記念館・北原
白秋碑~通り矢~ウミウ展望台~城ヶ島灯台~
城ヶ島大橋歩行~異人館跡~大椿寺~海南神
社~最福寺~見桃寺~歌舞島~うらり~三崎港
ーバス→三崎口駅

北原白秋は大正時代に三浦三崎の城ヶ島の近くに住んでいたことがあります。心傷を癒すために三崎に移り住んだのですが、思うように作家活動が進みません。そんな時、雨の城ヶ島を見てはっとふっ切れて書いた詩があつた有名な「城ヶ島の雨」です。今回はそんな白秋の詩にうたわれた場所や、彼の住居やよく行った場所などを訪ねます。

③古東海道神奈川宿、歴史の道歩く

実施日:11月19日(土曜日)

集合:京急「神奈川新町駅」 10時

解散:横浜駅 15時30分ごろ

距離:5~6Km

昼食:弁当持参

東海道五十三次のひとつ神奈川宿。この地名が県の名前や区の名前の由来であり、また、近代都市横浜が発展を

神奈川新町駅～長延寺跡(オランダ領事館跡)～良泉寺～笠程稲荷神社～能満寺・神明宮～東光寺～金蔵院～熊野神社～高札場～成仏寺～慶運寺～浄瀧寺～大井戸～宗興寺～権現山～洲崎大神～普門寺～甚行寺～大綱金刀比羅神社～本覚寺～台の坂 茶屋～神奈川台の関門跡→横浜駅

して行く原点になります。しかし、関東大震災や第二次世界大戦によって、歴史的遺産の多くを失いました。それでも歴史と伝説のあるこの街をめぐる、当時の面影を見つけることができます。開港当時、多くの寺が、諸外国の領事館などに充てられていましたので、そうしたお寺巡りも興味深いものがあります。

④鎌倉の洋館巡り

実施日:2017年3月30日(木曜日)

集合:JR「鎌倉駅」西口 10時

距離:6～7Km

昼食:外食

御成小学校～旧安保小児科医院～旧横浜興銀～寸松堂～かいひん荘～加賀谷邸～長谷子供会館～鎌倉文学館～ハリス記念鎌倉幼稚園・日本基督教団鎌倉教会～伊藤邸～土谷邸～比企谷幼稚園～聖ミカエル教会堂～湯浅物産～三河屋本店～川合邸～石島邸→古我邸→鎌倉駅西口

鎌倉は八百年の時を刻んだ町であります。必ずしも昔の姿をとどめていませんが、それでも中世の表情は今でも垣間みせてくれます。明治の世を迎えた時、にわかには避暑地、保養地として注目されるようになったのです。健康と安らぎを求める上流社会の人々が別荘の建築を始めました。きっかけはドイツ人のベルツや長与専斎(ながよせんさい)などの医者を作ったようです。

今回はそんな時期に作られ現在も残る鎌倉指定景観重要建築物になっている洋館を訪ねます。開花を迎えた桜の花と共に私たちの目を楽しませてくれることでしょう。

● 訃報(2015年10月1日以降判明分)

先生

鈴木和郎様(事務会計主任)2015年9月18日

大木章次郎先生(倫理)2015年10月29日

阿部忠也先生(国語)2016年1月26日

卒業生

堀内弘之氏	(3期)	2015年4月6日
西村崇氏	(13期)	2015年6月12日
岩間幸紀氏	(17期)	2015年8月7日
角村健二郎氏	(15期)	2015年8月21日
滝沢徹氏	(19期)	2015年9月1日
島森信寿氏	(1期)	2015年9月14日
池田康生氏	(27期)	2015年9月15日
水嶋藤雄氏	(4期)	2015年9月18日
高山幹夫氏	(13期)	2015年9月29日
関谷清氏	(6期)	2015年10月13日
黒滝学治氏	(30期)	2015年11月1日
島田厚夫氏	(4期)	2015年11月25日
神原繁雄氏	(6期)	2015年12月13日
大塚肇氏	(6期)	2015年12月17日
柴田義勝氏	(9期)	2015年12月23日
北村英夫氏	(4期)	2015年12月23日
荒川治雄氏	(6期)	2016年1月12日
新保巖氏	(2期)	2016年1月28日
川村仁弘氏	(14期)	2016年2月8日
赤倉康友氏	(5期)	2016年2月27日
鈴木成一氏	(3期)	2016年3月11日
林田隆夫氏	(2期)	2016年3月15日

謹んでご冥福をお祈りいたします。

● 次号(第86号):2016年10月発行予定。

● 投稿歓迎

同期会や支部のイベント報告、個人の体験記などの投稿を歓迎します。標準サイズは文章1,200文字程度+写真1枚。同窓会事務局宛てメールまたは封書でお送りください。

メールアドレス:admin@eikoalumni.org

住所:(本号第1頁にあります)。

● 編集後記

同窓会の会合等で学園に足を運ぶたびに新校舎工事の様子を拝見するのが楽しみになっています。皆様も5月14日、15日の栄光際に足を運ばれ、大講堂前あたりから工事の様子をのぞいてみてはいかがでしょうか。